

# 基本計画書

基本計画								
事項	記入欄						備考	
計画の区分	学部の設置							
フリガナ設置者	ガッコウホジツン ムコガワクイン 学校法人 武庫川学院							
フリガナ大学の名称	ムコガワリョウダイク 武庫川女子大学 (Mukogawa Women's University)							
大学本部の位置	兵庫県西宮市池開町6番46号							
大学の目的	武庫川学院立学の精神に基づき、女子に広く知識を授けるとともに、深く専門の学芸を教授研究し、高い知性と善美な情操と高雅な徳性を兼ね具えた有為な日本女性を育成して、平和的世界文化の向上に貢献することを目的とする。							
新設学部等の目的	本学院が掲げる立学の精神、教育目標、教育推進宣言に則り、平和で民主的な社会の形成者として、幅広い教養とグローバル化する社会への理解を有し、地域社会で生きる人々を尊重し、相互に助け合うことができる豊かな人間性を備えるとともに、経営全般に関する専門的知識と実践力を有し、どのような時代にあっても、世界のどこにいても、何歳であっても、たとえ逆境にいたとしても、自らの暮らしをその環境にあわせて構築し、そのために必要となる知識や技能を獲得し、協力してくれる人との良好な関係を築ける能力と意欲を持ち続け、国内外のビジネス社会で活躍できる人材を養成することで、“しなやかな女性キャリア”の実現に貢献することを目的とする。							
新設学部等の概要	新設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	開設時期及び開設年次	所在地
	経営学部 【School of Business Administration】	年	人	年次人	人		年 月 第 年次	兵庫県西宮市 池開町6番46号
	経営学科 【Department of Business Administration】	4	200	—	800	学士 (経営学)	平成32年4月 第1年次	
	計		200	—	800	【Bachelor of Business Administration】		
同一設置者内における変更状況 (定員の移行、名称の変更等)	<p>○学部の設置（令和元年6月届出）</p> <p>食物栄養科学部 食物栄養学科 (200) (3年次編入学定員) (10) 食創造科学科 (80) (3年次編入学定員) (5)</p> <p>建築学部 建築学科 (45) 景観建築学科 (40)</p> <p>○収容定員の変更に係る学則変更（令和元年6月認可申請）</p> <p>食物栄養科学部 食物栄養学科〔定員増〕 (200) (3年次編入学定員) (10) 食創造科学科〔定員増〕 (80) (3年次編入学定員) (5)</p> <p>建築学部 建築学科〔定員増〕 (45) 景観建築学科〔定員増〕 (40)</p> <p>○学生募集の停止</p> <p>生活環境学部 食物栄養学科（廃止） (△200) (3年次編入学定員) (△10) ※令和2年4月学生募集停止 (3年次編入学定員は令和4年4月学生募集停止)</p> <p>建築学科（廃止） (△40) ※令和2年4月学生募集停止</p>							

事項		記入欄				備考			
同一設置者内における 変更状況 (定員の移行, 名称の変更等)		○研究科の設置 (平成31年6月届出予定)							
		建築学研究科 建築学専攻 修士課程 (22) 同 博士後期課程 (2) 景観建築学専攻 修士課程 (6) 同 博士後期課程 (1)							
		○収容定員の変更に係る学則変更 (届出省略)							
		建築学研究科 建築学専攻 修士課程〔定員増〕 (22) 同 博士後期課程〔定員増〕 (2) 景観建築学専攻 修士課程〔定員増〕 (6) 同 博士後期課程〔定員増〕 (1)							
		○学生募集の停止							
		生活環境学研究科 建築学専攻 修士課程 (廃止) (△22) ※平成32年4月学生募集停止 同 博士後期課程 (廃止) (△2) ※平成32年4月学生募集停止							
		○収容定員の変更に係る学則変更 (平成31年9月届出予定)							
		武庫川女子大学短期大学部 食生活学科〔定員減〕 (△80)							
教育課程	新設学部等の名称	開設する授業科目の総数				卒業要件単位数			
		講義	演習	実験・実習	計				
	経営学部 経営学科	176 科目	83 科目	16 科目	275 科目	124 単位			
教員	学部等の名称	専任教員等						兼任教員等	
		教授	准教授	講師	助教	計	助手		
新設	経営学部 経営学科	9人 (8)	2人 (2)	3人 (2)	2人 (1)	16人 (14)	0人 (0)	125人 (89)	
	食物栄養科学部 食物栄養学科	11 (7)	11 (7)	1 (1)	1 (0)	24 (15)	14 (14)	138 (93)	
	食物栄養科学部 食創造科学科	7 (4)	5 (2)	1 (0)	0 (0)	13 (6)	6 (6)	127 (92)	
	建築学部 建築学科	6 (5)	7 (7)	1 (1)	1 (1)	15 (14)	1 (1)	145 (99)	
	建築学部 景観建築学科	7 (5)	1 (1)	0 (0)	1 (1)	9 (7)	1 (1)	160 (107)	
	計	40 (29)	26 (19)	6 (4)	5 (3)	77 (56)	22 (22)	— (—)	
既設	文学部 日本語日本文学科	10 (10)	1 (1)	3 (3)	0 (0)	14 (14)	0 (0)	148 (131)	
	英語文化学科	7 (7)	9 (9)	1 (1)	0 (0)	17 (17)	0 (0)	153 (130)	
	心理・社会福祉学科	9 (9)	7 (7)	1 (1)	2 (2)	19 (19)	0 (0)	117 (101)	
	教育学部 教育学科	12 (12)	9 (9)	6 (6)	0 (0)	27 (27)	1 (1)	150 (134)	
	健康・スポーツ科学部 健康・スポーツ科学科	11 (11)	6 (6)	1 (1)	0 (0)	18 (18)	0 (0)	129 (113)	
	生活環境学部 生活環境学科	7 (7)	12 (12)	1 (1)	0 (0)	20 (20)	7 (7)	129 (113)	
	情報メディア学科	8 (8)	5 (5)	3 (3)	0 (0)	16 (16)	1 (1)	112 (95)	
	音楽学部 演奏学科	5 (5)	2 (2)	1 (1)	0 (0)	8 (8)	0 (0)	122 (105)	
	応用音楽学科	3 (3)	4 (4)	0 (0)	0 (0)	7 (7)	0 (0)	115 (98)	
	薬学部 薬学科	19 (19)	11 (11)	7 (7)	5 (5)	42 (42)	15 (15)	134 (118)	
	健康生命薬科学科	6 (6)	2 (2)	1 (1)	2 (2)	11 (11)	6 (6)	119 (103)	
	看護学部 看護学科	10 (10)	10 (10)	3 (3)	16 (16)	39 (39)	0 (0)	111 (96)	
	共通教育部	4 (4)	2 (2)	1 (1)	0 (0)	7 (7)	0 (0)	120 (108)	

教員組織の概要	学部等の名称		専任教員等					兼任教員等	
			教授	准教授	講師	助教	計		助手
既設	教育研究所		4 (4)	1 (1)	0 (0)	0 (0)	5 (5)	1 (1)	0 (0)
	発達臨床心理学研究所		0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	1 (1)	0 (0)
	言語文化研究所		0 (0)	0 (0)	0 (0)	1 (1)	1 (1)	1 (1)	0 (0)
	生活美学研究所		0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	1 (1)	0 (0)
	情報教育研究センター		0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	1 (1)	0 (0)
	バイオサイエンス研究所		0 (0)	0 (0)	0 (0)	1 (1)	1 (1)	0 (0)	0 (0)
	国際健康開発研究所		1 (1)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	1 (1)	0 (0)	0 (0)
	トルコ文化研究センター		0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	1 (1)	0 (0)
	健康運動科学研究所		0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	1 (1)	0 (0)
	栄養科学研究所		0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	1 (1)	0 (0)
	学校教育センター		7 (7)	0 (0)	1 (1)	1 (1)	9 (9)	0 (0)	5 (5)
	計		123 (123)	81 (81)	30 (30)	28 (28)	262 (262)	37 (37)	— (—)
合計		163 (152)	107 (100)	36 (34)	33 (31)	339 (318)	59 (59)	— (—)	
教員以外の職員の概要	職種		専任		兼任		計		
	事務職員		157 (157)		29 (29)		186 (186)		
	技術職員		1 (1)		1 (1)		2 (2)		
	図書館専門職員		1 (1)		1 (1)		2 (2)		
	その他の職員		1 (1)		1 (1)		2 (2)		
	計		160 (160)		32 (32)		192 (192)		
校地等	区分	専用	共用	共用する他の学校等の専用		計		武庫川女子大学短期大学部(必要面積14,000㎡)と共用 借用面積: 1,129.19㎡ 借用期間: 27年8月	
	校舎敷地	68,039.60 ㎡	72,518.66 ㎡	0 ㎡		140,558.26 ㎡			
	運動場用地	0 ㎡	92,502.75 ㎡	0 ㎡		92,502.75 ㎡			
	小計	68,039.60 ㎡	165,021.41 ㎡	0 ㎡		233,061.01 ㎡			
	その他	0 ㎡	8,404.89 ㎡	0 ㎡		8,404.89 ㎡			
合計	68,039.60 ㎡	173,426.30 ㎡	0 ㎡		241,465.90 ㎡				
校舎	専用	共用	共用する他の学校等の専用		計		武庫川女子大学短期大学部(必要面積10,450㎡)と共用		
	72,010.29 ㎡ (68,256.39㎡)	115,605.29 ㎡ (111,536.29㎡)	0 ㎡ (0 ㎡)		187,615.58 ㎡ (179,792.68㎡)				
教室等	講義室	演習室	実験実習室	情報処理学習施設	語学学習施設		大学全体		
	153 室	208 室	442 室	12 室 (補助職員 1人)	4 室 (補助職員 3人)				
専任教員研究室	新設学部等の名称			室数					
	経営学部 経営学科			18 室					
図書・設備	新設学部等の名称	図書 〔うち外国書〕 冊	学術雑誌 〔うち外国書〕 種	電子ジャーナル 〔うち外国書〕 種	視聴覚資料 点	機械・器具 点	標本 点	大学全体での共用部分を含む 図書10,169冊〔645冊〕 学術雑誌196種〔32種〕 視聴覚資料68点	
	経営学部 経営学科	13,132 [1,119] (11,989 [ 936])	220 [36] (220 [36])	1 [0] (1 [0])	68 (68)	204 (196)	0 (0)		
	計	13,132 [1,119] (11,989 [ 936])	220 [36] (220 [36])	1 [0] (1 [0])	68 (68)	204 (196)	0 (0)		

図書館		面積		閲覧座席数		収納可能冊数		大学全体			
		12,499.61	m <sup>2</sup>	1,688		868,000					
体育館		面積		体育館以外のスポーツ施設の概要							
		17,308.50	m <sup>2</sup>	総合スタジアムスタンド、各グラウンド内のトイレ、更衣室							
経費の見積り及び維持の概要	経費の見積り	区分	開設前年度	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次	図書購入費には、電子ジャーナル、データベースの整備費（運用コスト含む）を含む	
		教員1人当り研究費等		270千円	270千円	270千円	270千円				
		共同研究費等		0千円	2,000千円	3,600千円	3,600千円				
		図書購入費	13,065千円	2,902千円	2,930千円	2,962千円	2,996千円				
	設備購入費	260,344千円	1,000千円	1,000千円	1,000千円	1,000千円					
	学生1人当り納付金	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次	第1年次には入学金200千円を含む			
	1,200千円	1,200千円	1,200千円	1,200千円	千円	千円					
学生納付金以外の維持方法の概要			私立大学等経常費補助金、資産運用収入、雑収入等								
大学の名称		武庫川女子大学大学院									
学部等の名称		修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	定員超過率	開設年度	所在地		
既設大学の状況	文学研究科		年	人	年次人	人		倍			
	日本語日本文学専攻（修士課程）	2	12	—	24	修士（文学）	0.16	昭和46年度	兵庫県西宮市池開町6番46号		
	日本語日本文学専攻（博士後期課程）	3	3	—	9	博士（文学）	0.00	平成3年度	同上		
	英語英米文学専攻（修士課程）	2	12	—	24	修士（文学）	0.24	昭和46年度	同上		
	英語英米文学専攻（博士後期課程）	3	3	—	9	博士（文学）	0.22	平成12年度	同上		
	教育学専攻（修士課程）	2	6	—	12	修士（教育学）	0.16	平成17年度	同上		
	臨床心理学専攻（修士課程）	2	20	—	40	修士（臨床心理学）	0.95	平成11年度	同上		
	臨床教育学研究科										
	臨床教育学専攻（修士課程）	2	16	—	32	修士（臨床教育学）	0.75	平成6年度	兵庫県西宮市池開町6番46号		
	臨床教育学専攻（博士後期課程）	3	6	—	18	博士（臨床教育学）又は（教育学）	0.72	平成9年度	同上		
	健康・スポーツ科学研究科										
	健康・スポーツ科学専攻（修士課程）	2	20	—	40	修士（健康科学）又は（スポーツ科学）	0.40	平成23年度	兵庫県西宮市池開町6番46号		
	生活環境学研究科										
	食物栄養学専攻（修士課程）	2	12	—	24	修士（食物栄養学）	0.70	昭和41年度	兵庫県西宮市池開町6番46号		
食物栄養学専攻（博士後期課程）	3	2	—	6	博士（食物栄養学）	0.83	平成2年度	同上			
生活環境学専攻（修士課程）	2	6	—	12	修士（生活環境学）又は（情報メディア学）	0.24	平成12年度	同上			
生活環境学専攻（博士後期課程）	3	2	—	6	博士（生活環境学）又は（情報メディア学）	0.16	平成12年度	同上			
建築学専攻（修士課程）	2	22	—	44	修士（建築学）	1.38	平成18年度	兵庫県西宮市戸崎町1番13号			
建築学専攻（博士後期課程）	3	2	—	6	博士（建築学）	0.33	平成18年度	同上			

既設 大学 等の 状況	大学の名称	武庫川女子大学大学院							所在地	
	学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	定員超過率	開設年度		
	薬学研究科									
	薬学専攻 (博士課程)	4	2	—	8	博士 (薬学)	0.37	平成24年		兵庫県西宮市甲子園九番町11番68号
	薬科学専攻 (修士課程)	2	30	—	60	修士 (薬科学)	0.31	平成22年		同上
	薬科学専攻 (博士後期課程)	3	2	—	6	博士 (薬科学)	0.50	平成24年		同上
看護学研究科										
看護学専攻 (修士課程)	2	12	—	24	修士 (看護学)	0.91	平成27年	兵庫県西宮市池開町6番46号		
看護学専攻 (博士後期課程)	3	3	—	9	博士 (看護学)	2.44	平成29年	同上		
既設 大学 等の 状況	大学の名称	武庫川女子大学							所在地	
	学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	定員超過率	開設年度		
	文学部	年	人	年次人	人		1.03			
	日本語日本文学科	4	150	3年次25	650	学士 (日本語日本文学)	1.05	昭和33年		兵庫県西宮市池開町6番46号
	英語文化学科	4	200	3年次25	850	学士 (英語文化学)	1.02	昭和33年		同上
	教育学科	4	—	—	—	学士 (教育学)	—	昭和38年		同上
	心理・社会福祉学科	4	160	3年次17	674	学士 (心理学)又は (社会福祉学)	1.04	平成12年		同上
	教育学部						0.90			
	教育学科	4	240	3年次25	240	学士 (教育学)	0.90	令和元年		兵庫県西宮市池開町6番46号
	健康・スポーツ科学部						1.06			
	健康・スポーツ科学科	4	180	3年次20	665	学士 (健康・スポーツ科学)	1.06	平成23年		兵庫県西宮市池開町6番46号
	生活環境学部						1.02			
	生活環境学科	4	165	3年次20	595	学士 (生活環境学)	1.02	平成6年		兵庫県西宮市池開町6番46号
食物栄養学科	4	200	3年次10	820	学士 (食物栄養学)	0.99	平成6年	同上		
情報メディア学科	4	150	—	600	学士 (情報メディア学)	1.06	平成6年	同上		
建築学科	4	40	—	120	学士 (建築学)	1.05	平成18年	兵庫県西宮市戸崎町1番13号		

平成31年4月より  
学生募集停止、3  
年次編入学は令和  
3年4月より学生募  
集停止

令和元年度設置

令和元年度より入  
学定員増(30  
人)、3年次編入  
学定員増(5人)

令和元年度入学  
定員増(35人)

既設大学の状況	大学の名称	武庫川女子大学							
	学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	定員超過率	開設年度	所在地
	音楽学部						0.93		
	演奏学科	4	30	—	120	学士(声楽)又は(器楽)	0.80	平成21年	兵庫県西宮市池開町6番46号
	応用音楽学科	4	20	—	80	学士(応用音楽)	1.12	平成21年	同上
	薬学部(6年制)						1.00		
	薬学科	6	210	—	1,260	学士(薬学)	1.00	平成18年	兵庫県西宮市甲子園九番町11番68号
	薬学部(4年制)						0.86		
健康生命薬科学科	4	40	—	160	学士(薬科学)	0.86	平成18年	兵庫県西宮市甲子園九番町11番68号	
看護学部						1.03			
看護学科	4	80	—	320	学士(看護学)	1.03	平成27年	兵庫県西宮市池開町6番46号	
既設大学の状況	大学の名称	武庫川女子大学短期大学部							
	学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	定員超過率	開設年度	所在地
		年	人	年次人	人		倍		
	日本語文化学科	2	100	—	200	短期大学士(日本語文化学)	1.03	昭和26年	兵庫県西宮市池開町6番46号
	英語キャリア・コミュニケーション学科	2	100	—	200	短期大学士(英語コミュニケーション学)	1.09	昭和25年	同上
	幼児教育学科	2	150	—	300	短期大学士(幼児教育学)	0.91	昭和26年	同上
	心理・人間関係学科	2	100	—	200	短期大学士(心理・人間関係学)	1.08	昭和62年	同上
	健康・スポーツ学科	2	80	—	160	短期大学士(健康・スポーツ学)	0.89	昭和30年	同上
食生活学科	2	160	—	320	短期大学士(食生活学)	0.59	昭和26年	同上	
生活造形学科	2	90	—	250	短期大学士(生活造形学)	0.98	昭和25年	同上	
附属施設の概要	名称 : 武庫川女子大学薬用植物園 所在地 : 兵庫県西宮市甲子園九番町11番68号 設置年月 : 昭和37年4月(現施設は、昭和62年11月) 規模等 : 温室・寒地性植物栽培室 162.68㎡及び薬草園400.00㎡							令和元年度入学定員減(△70人)	

教 育 課 程 等 の 概 要

(経営学部 経営学科)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考			
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手				
人文科学科目	神話・伝説の世界から	1前・後		2		○										兼1	
	平安朝文学の世界	1前		2		○										兼1	
	芭蕉をめぐる人々	1前		2		○										兼1	
	雨月物語に込められた情念	1前		2		○										兼1	
	芭蕉と旅	1後		2		○										兼1	
	「心中天網島」の女房「おさん」	1後		2		○										兼1	
	日本史の中の女性たち	1前・後		2		○										兼1	
	日本の画像文化論	1前・後		2		○										兼1	
	日常生活からの哲学入門	1前・後		2		○										兼1	
	現代フランスの音楽事情	1前・後		2		○										兼1	
	ミュージカル歌唱法	1前・後		2			○									兼1	
	音楽の科学	1前・後		2		○										兼1	
	先端芸術表現	1前・後		1			○									兼1	
	自己発見アート	1前・後		1			○									兼1	
	未来造形	1前・後		1			○									兼1	
	日本舞踊に学ぶ着付けと作法	1前・後		1			○									兼1	
	ミュージカルの実践	1前・後		1			○									兼1	
	歌舞伎鑑賞入門	1後		2		○										兼1	
	日本の文化 I	1前		2		○										兼1	
	日本の文化 II	1後		2		○										兼1	
	遊びの人類学	1後		2		○										兼1	
	SNSから日本語を見る	1前・後		2		○										兼1	
	心理学入門	1後		2		○										兼1	
	人間関係の心理学	1前・後		2		○										兼1	
	環境心理学入門	1前・後		2		○				1							
心理学実践演習	1前		2			○									兼1		
社会科学科目	差別と暴力のない世界をめざして	1後		2		○										兼1	
	カウンセリングの実際	1前・後		2		○										兼1	
	カウンセリングスキル	1前・後		2		○										兼1	
	実践カウンセリング	1前・後		2		○										兼1	
	生涯福祉論	1前・後		2		○										兼1	
	社会福祉とボランティア	1前・後		2		○										兼1	
	福祉レクリエーションの実際	1後		2		○										兼1	
	子育てと家族関係	1前		2		○										兼1	
	「ふつう」を考える社会学	1前・後		2		○										兼1	
	子育てと母性の気づき	1前		2		○										兼1	
	現代社会と憲法	1前・後		2		○										兼1	
	外国から見た日本社会のしくみ	1後		2		○										兼1	
	都市形成のあゆみと都市生活	1後		2		○										兼1	
	消費者生活論	1前		2		○										兼1	
	日本経済のしくみ	1前		2		○										兼1	
	英語で学ぶやさしい経済学	1前		2		○										兼1	
	英語で学ぶお金の知識	1後		2		○										兼1	
	我々のくらしと日本の産業	1前・後		2		○										兼1	
	教養としての法律	1前		2		○					1						
	暮らしと法律	1後		2		○						1					
	世界の大学事情	1前・後		2		○										兼1	
	現代世界の教育	1前・後		2		○										兼1	
	情報化と教育	1前・後		2		○										兼1	
	女性と子どものヘルスケア	1前・後		2		○										兼2 オムニバス	
	自然科学科目	生命科学入門	1前・後		2		○										兼1
環境問題の歴史		1前		2		○										兼1	
科学技術の歩み		1後		2		○										兼1	
生命科学の基礎		1前		2		○										兼1	
生活の中の物理学		1後		2		○										兼1	
最先端物理学が描く宇宙		1後		2		○										兼1	
エコロジーと私たちのくらし		1後		2		○										兼1	
微生物がつくる発酵食品の不思議		1前		2		○										兼1	
色彩情報		1前・後		2		○										兼1	
科学から考える衣服と生活		1後		2		○										兼1	
文化を創造する数学		1前		2		○										兼1	
科学への入門		1前・後		2		○										兼1	
国際理解科目		韓国文化の理解	1前・後		2		○										兼1
		中国文化論	1前・後		2		○										兼1
		World English I	1前		2		○										兼1
	World English II	1後		2		○										兼1	
	世界の中の日本人	1前		2		○										兼1	
現代科目	国際協力入門	1前		2		○										兼1	
	大学生活入門	1前・後		2		○										兼1	
	Japanese Culture Influence I	1前		2		○										兼1	
	Japanese Culture Influence II	1後		2		○										兼1	
	モラル・ジェンマから考える私	1前		2		○										兼1	
女性のためのマーケティング	1前・後		2		○				1								

**教 育 課 程 等 の 概 要**

(経営学部 経営学科)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
ジェンダー 科目群	アジアのなかのジェンダー	1前・後		2		○									兼1	
	ジェンダーとアイデンティティ	1前・後		2		○									兼1	
ジェンダー 科目群	女性と教育	1前・後		2		○									兼1	
	メディアに見るジェンダー	1前・後		2		○									兼1	
ジェンダー 科目群	女性の身体とセクシュアリティ	1前・後		2		○									兼1	
	女性と家族のゆくえ	1前・後		2		○									兼1	
デキザリア 科目群	文章表現の基礎	1前・後		2		○									兼1	
	プレゼンテーションの基礎	1前・後		2		○									兼1	
デキザリア 科目群	日本語表現の基礎	1前・後		2		○									兼1	
	自己アピールトレーニング	1前・後		2		○									兼1	
デキザリア 科目群	女性のためのライフプランニング	1前・後		2		○									兼1	
	キャリアビジョンと人物評価	1前・後		2		○					1				兼1	
共通教育科目	英語コミュニケーションⅠ	1前・後		2			○								兼1	
	英語コミュニケーションⅡ	1前・後		2			○								兼1	
共通教育科目	英語コミュニケーションⅢ	1前・後		1			○								兼2	
	英語コミュニケーションⅣ	1前・後		1			○								兼2	
共通教育科目	英語リーディングⅠ	1前・後		1			○								兼1	
	英語リーディングⅡ	1前・後		1			○								兼1	
共通教育科目	英語ライティングⅠ	1前・後		1			○								兼2	
	英語ライティングⅡ	1前・後		1			○								兼1	
共通教育科目	TOEIC演習Ⅰ	1前・後		1			○								兼1	
	TOEIC演習Ⅱ	1前・後		1			○								兼1	
共通教育科目	TOEIC演習Ⅲ	1前・後		1			○								兼1	
	TOEFL演習	1後		1			○								兼1	
共通教育科目	Speaking & Listening Ⅰ	2前		1			○								兼1	
	Speaking & Listening Ⅱ	2後		1			○								兼1	
共通教育科目	Speaking & Listening Ⅲ	3後		1			○								兼1	
	Basics for Presentation Ⅰ	2前		1			○								兼1	
共通教育科目	Basics for Presentation Ⅱ	2後		1			○								兼1	
	Grammar for Communication	2前		1			○								兼1	
共通教育科目	Reading & Writing	2後		1			○								兼1	
	Presentation Ⅰ	3前		1			○								兼1	
共通教育科目	Presentation Ⅱ	3後		1			○								兼1	
	English for Careers	3前		1			○								兼1	
共通教育科目	Reading & Discussion	3後		1			○								兼1	
	Current Events Ⅰ	4前		1			○								兼1	
共通教育科目	Current Events Ⅱ	4後		1			○								兼1	
	Reading & Critical Thinking	4前		1			○								兼1	
共通教育科目	Global Communication Ⅰ	4前		1			○								兼1	
	Global Communication Ⅱ	4後		1			○								兼1	
共通教育科目	Carrer Workshop	4後		1			○								兼1	
	Writing for Daily Use	3前		1			○								兼1	
共通教育科目	ドイツ語Ⅰ	1前・後		2			○								兼3	
	ドイツ語Ⅱ	1前・後		2			○								兼1	
共通教育科目	フランス語Ⅰ	1前・後		2			○								兼2	
	フランス語Ⅱ	1後		2			○								兼1	
共通教育科目	中国語Ⅰ	1前・後		2			○								兼3	
	中国語Ⅱ	1前・後		2			○								兼3	
共通教育科目	イタリア語Ⅰ	1前・後		1			○								兼1	
	イタリア語Ⅱ	1前・後		1			○								兼1	
共通教育科目	スペイン語Ⅰ	1前		2			○								兼1	
	ハンブルⅠ	1前・後		2			○								兼2	
共通教育科目	ハンブルⅡ	1後		2			○								兼1	
	手話	1前		1			○								兼2	共同
共通教育科目	特別英語演習Ⅰ	1前・後		4			○								兼1	集中
	特別英語演習Ⅱ	1前・後		4			○								兼1	集中
共通教育科目	特別中国語演習Ⅰ	1前		2			○								兼1	集中
	特別中国語演習Ⅱ	1前		2			○								兼1	集中
共通教育科目	特別ハンブル演習Ⅰ	1前		4			○								兼1	集中
	特別ハンブル演習Ⅱ	1前		4			○								兼1	集中
共通教育科目	グラフィックデザイン基礎	1後		1			○								兼1	
	フォトタッチ基礎	1前		2			○								兼1	
共通教育科目	Webデザイン応用	1前・後		2			○								兼1	
	Scratchによるプログラミング	1前・後		2			○								兼1	
共通教育科目	情報社会を生きる技術	1前・後		2			○								兼1	
	Accessデータベース基礎	1前・後		2			○								兼1	
共通教育科目	データサイエンス入門	1前・後		2			○								兼1	
	データサイエンス演習	1後		2			○								兼1	



**教 育 課 程 等 の 概 要**

(経営学部 経営学科)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考			
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手				
共通教育科目	健康・スポーツ実技科目 スポーツ実技科目	スポーツと栄養	1前・後	2			○									兼1	
		ダンス・ムーブメントセラピー	1後	2			○									兼1	
		スポーツ実技(テニス)	1前・後	1					○							兼1	
		スポーツ実技(ゴルフ)	1前・後	1					○							兼1	
		スポーツ実技(バレーボール)	1前・後	1					○							兼1	
		スポーツ実技(バドミントン)	1前・後	1					○							兼1	
		スポーツ実技(ジャズダンス)	1前・後	1					○							兼1	
		スポーツ実技(エアロビクス)	1前・後	1					○							兼1	
		スポーツ実技(スリムエアロ)	1前・後	1					○							兼1	
		スポーツ実技(ダンスエアロ)	1前・後	1					○							兼1	
		スポーツ実技(軽スポーツ)	1前・後	1					○							兼1	
		スポーツ実技(遊びと障害)	1前・後	1					○							兼1	
		スポーツ実技(ヨガ)	1前・後	1					○							兼1	
		スポーツ実技(ビーチバレー)	1前・後	1					○							兼1	
		マッサージ実習	1後	1					○							兼1	
初年次ゼミ	学び発見ゼミ	1前・後	2				○		1						兼25		
<b>小 計 (157科目)</b>			<b>—</b>	<b>0</b>	<b>272</b>	<b>0</b>	<b>—</b>			<b>3</b>	<b>0</b>	<b>1</b>	<b>1</b>	<b>0</b>	<b>兼102</b>		
基礎教育科目	英語	Oral Communication	1前	2				○								兼1	
		Business English I	1後	2				○								兼2	
		Business English II	2前	2				○								兼2	
	情報演習	情報リテラシー I	1前	2				○		1		1				兼1	
		情報リテラシー II	1後	2				○		1		1				兼1	
	専門基礎	経営学入門	1前	2				○			1						
		経営組織論	1後	2				○			1						
		ビジネスプラン構築論	1後	2				○								兼1	
		経営戦略論入門	2前	2				○			1						
		経営環境論	2前	2				○			1						
		労使コミュニケーション論	2前	2				○			1						
		協働プロジェクト論	2前	2				○								兼1	
		組織行動論	2後	2				○			1						
		会計入門	1前	2				○			1						
		商業簿記 I	1後	2				○			1						
		商業簿記 II	2前	2				○			1						
		原価計算 I	2前	2				○								兼1	
		原価計算 II	2後	2				○								兼1	
		企業財務論	2前	2				○			1						
		マーケティング入門	1前	2				○				1					
		マーケティングリサーチ	1後	2				○			1						
		デジタルマーケティング	2前	2				○								兼1	
		消費者思考の製品開発	2後	2				○				1					
		統計入門	1後	2				○								兼1	
		統計解析	2前・後	2				○								兼1	
		ネットビジネス入門	1前	2				○					1				
		クラウド入門	1後	2				○			1						
		企業情報システム I	2後	2				○					1				
		経済学入門	1前	2				○						1			
		ヴィジュアルマーチャンダイジング	2後	2				○								兼1	
		パブリックマネジメント入門	1前	2				○			1						
		法律入門 I	1前	2				○					1				
		法律入門 II	1後	2				○					1				
		民法入門 I	1後	2				○								兼1	
		民法入門 II	2前	2				○								兼1	
		地域振興論	2後	2				○					1				
		中小企業イノベーション論	2前	2				○					1				
		企業の社会連携論	2前	2				○						1			
		公共総合基礎演習 I	2前	2					○				1	1			オムニバス
		公共総合基礎演習 II	2後	2					○				1	1			オムニバス
		CSR	2後	2					○					1			
	ビジネスシンキング	1前・後	2					○		2							
	論理と数理入門	1前・後	2					○					1				
	消費者行動論	1後	2					○		1							
	デザイン思考	2前	2					○								兼1 集中	
ロジカルシンキング	2前	2					○								兼1 集中		
社会心理学	2前	2					○		1								
キャリアデザイン特講 I	1後	2					○		1	2	1				オムニバス		
キャリアデザイン特講 II	3後	2					○		1								
基礎演習	初期演習 I	1前	1					○	2	1	1						
	初期演習 II	1後	1					○	2	1	1						
	経営課題演習 I	2前	2					○	2	1	1						
	経営課題演習 II	2後	2					○	2	1	1						

教 育 課 程 等 の 概 要

(経営学部 経営学科)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考			
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手				
基礎 科目 教育	実践へのいざない	1前	2			○			2						共同		
	インターンシップ	2後		1~3				○	1						集中		
	サービスマネジメント	2前		1~3				○	1						集中		
	フィールドワーク	1後		1~3				○	1						集中		
小計(57科目)			28	81~87	0				9	2	3	2	0	兼13			
専門 教育 科目	分野別 専門	ビジネス・ デザイン・ スタディーズ	経営管理論	2後	2		○			1							
			流通小売論	2後	2		○			1							
			財務会計論 I	2後	2		○				1						
			管理会計論 I	2後	2		○										兼1
			経営戦略論 I	3前	2		○				1						
			マーケティング戦略論	3前	2		○				1						
			AI戦略論	3前・後	2		○				1						
			商品企画論	3前	2		○					1					
			ビジネスモデル論	3前	2		○				1		1				
			中小企業論	3前	2		○						1				
			財務会計論 II	3前	2		○				1						
			人的資源管理論	3前	2		○				1						
			対人関係論	3前	2		○				1						
			労働経済論	3前	2		○				1						
			ベンチャービジネス論	3前	2		○										兼1
			企業情報システム II	3前	2		○										兼1
			管理会計論 II	3前	2		○										兼1
			経営戦略論 II	3後	2		○				1						
			デジタル戦略論	3後	2		○						1				
			パブリックリレーションズ	3後	2		○					1					
			広告・セールスプロモーション	3後	2		○					1					
	サブライチエーションマネジメント	3後	2		○				1		1						
	上級財務会計論	3後	2		○				1								
	イノベーションプロセス論	3後	2		○					1							
	グローバル スタ タ マ ネ ジ メ ン ト	Writing	2後	3				○								兼1	
		Reading	2後	3				○								兼1	
		Conversation	2後	3				○								兼1	
		Microeconomics	2後	2		○										兼1	
		Financial Accounting	2後	2		○										兼1	
		Corporate Finance	2後	2		○										兼1	
		ビジネスライティング	3前	2		○										兼1	
		スピーチプレゼンテーション	3前	2		○										兼1	
		経験価値マネジメント	3前	2		○				1							
		グローバル経営論	3後	2		○				1							
		グローバル製品開発論	3後	2		○					1						
	パブリック スタ タ マ ネ ジ メ ン ト	ブランド戦略論	3後	2		○					1						
		企業の投資意思決定	3後	2		○				1							
		M&Aと企業価値評価	3後	2		○										兼1	
		新興国企業論	3後	2		○										兼1	
		パブリックマネジメント	2後	2		○				1							
		産学教育連携論	2後	2		○							1				
		環境マーケティング	2後	2		○							1				
公共政策論		3前	2		○				1								
地域産業論		3前	2		○							1					
地方財政論		3前	2		○										兼1		
業 界 研 究	市民協働参画論	3前	2		○										兼1		
	行政法	3前	2		○										兼1		
	福祉経営論	3前	2		○										兼1		
	地域政策論	3後	2		○				1								
	情報政策論	3後	2		○				1								
	地域ブランド論	3後	2		○						1						
	地域防災・復興論	3後	2		○										兼1		
	美容業界論	3前	2		○					1							
	健康ヘルスケア産業論	3前	2		○				1								
	流通産業論	3前	2		○				1								
専 門 演 習	ファッション・アパレル業態論	3前	2		○										兼1		
	情報通信産業論	3後	2		○				1								
	ホテル・ホスピタリティ産業論	3後	2		○										兼1		
	フードサービス産業論	3後	2		○				1								
	レジャー・エンターテインメント産業論	3後	2		○										兼1		
	専門演習 I	3前	2				○		9	2	3	1					
専門演習 II	3後	2				○		9	2	3	1						
専門演習 III	4前	2				○		9	2	3	1						
専門演習 IV	4後	2				○		9	2	3	1						
卒業研究	4通	4				○		9	2	3	1			集中			

**教 育 課 程 等 の 概 要**

(経営学部 経営学科)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
小計 (65科目)		—	12	123	0	—	—	—	9	2	3	1	0	兼17
合計 (279科目)		—	40	476~482	0	—	—	—	9	2	3	2	0	兼125
学位又は称号		学士(経営学)			学位又は学科の分野			経済学関係						
卒業要件及び履修方法							授業期間等							
4年以上在学し、共通教育科目から16単位以上、基礎教育科目から必修科目28単位を含め40単位以上、専門教育科目から必修科目12単位及びビジネス・デザイン・スタディーズから12単位以上、グローバル・マネジメント・スタディーズから6単位以上、パブリック・マネジメント・スタディーズから6単位以上を含め50単位以上、合計124単位以上を修得すること。なお共通教育科目、基礎教育科目及び専門教育科目に開講される外国語科目を合計8単位以上を修得しなければならない。 (履修科目の登録の上限:44単位未満(年間))							1学年の学期区分				2 学期			
							1学期の授業期間				15 週			
							1時限の授業時間				90 分			

## 授 業 科 目 の 概 要

(経営学部 経営学科)

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通教育科目 基礎教養科目群 人文科学科目	神話・伝説の世界から	古代の人々は、文字を持たない時代から、生活の中に起こるいろいろな事象を、感動や信仰に結びつけて語り伝えてきた。それが神話や伝説として記録されたのである。古代の人々は一体どのようなものを神と感じ、伝えようとしたのだろうか。この授業では、古事記神話や伝説を読みながら現代の私達の生活の中にも、神話的なものや伝説が生きていることを知り、日本を理解したい。	
	平安朝文学の世界	平安時代には、仮名文字の発達により、物語文学や日記文学・随筆など、さまざまなジャンルの散文学が開花した。この時代の人々は、何を考え、どのように生活していたのだろうか。恋愛は、家庭生活は、そして仕事は？——平安時代の文学作品を読み味わうことを通して、この時代を身近に感じ、理解を深めて貰いたい。	
	芭蕉をめぐる人々	「芭蕉」の経歴や作品に現れた人物との関わりを通じて、いかにして「芭蕉」が俳諧を志したか、又作品にどのような変化が現れたかを、その作品や経歴を辿ることによって理解し、かつ、それらの人々とどのような交流があり、彼らに対する心情がどうであったのかも理解する。可能であれば、人々の芭蕉に対する心情も推察する。なお、理解を助けるために、映像資料を使用する。	
	雨月物語に込められた情念	『雨月物語』を実際に読み、作品の話の流れや登場人物の言動をたどりながら、怪異譚としての面白さに隠された、情念、特に執着心を探る。また、その情念の込められた作品から作者「秋成」自身の情念を探ってゆく。資料画像も可能な限り使用する。	
	芭蕉と旅	「芭蕉」の紀行の中で完成された作品は『おくのほそ道』だけでもいわれる。しかし、「芭蕉」の旅に対する意識は、最も初期に書かれた『野ざらし紀行』にすでに現れている。この講義では完成作品である『おくのほそ道』を中心として、紀行文を取り上げ芭蕉の旅に対する意識や、創作意図を探る。なお、理解の助けになるよう映像資料等を使用する。	
	「心中天網島」の女房「おさん」	恋の当事者たちに何ら世間のしがらみがなければ、彼らが心中に至ることはおそらく稀であろう。多くは周囲の人たちによるしがらみが、彼らを心中に至らしめるのである。この講義では「心中天網島」における周囲の人々の言動と、その中で揺れ動く「治兵衛」の女房「さん（おさん）」の心情を探ってゆく。作品の理解のため、映画等を併用する。	
	日本史の中の女性たち	歴史上の各時代を代表する女性を中心的素材として取り上げ、時代背景、社会の特質、果たした役割などについて幅広い観点から検討する。現代社会と比較しながら、女性として現代を生きる意味を考察できる素材の提供を図る。	

## 授 業 科 目 の 概 要

(経営学部 経営学科)

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通教育科目 基礎教養科目群 人文科学科目	日本の画像文化論	描かれたさまざまな資料を映写して実際に見ることで、それらが描かれた目的や意図、内容を理解する。そのうえで「描かれた」資料が、社会や生活に果たした役割についての理解を深めるよう解説を加える。	
	日常生活からの哲学入門	何気ない日常生活の中にひそむ哲学的な問題を取り上げ、関連する哲学者の議論を紹介する。まずは、ふだん当たり前のように感じていることに対して疑問を投げかけるところから出発する。その上で、新しい眼差しのもとでこの現実を見つめ直していくような視点を、一つ一つ示していく。哲学の概念枠組みを通して現実を分析することで、日常生活の中にどのような問題が現れてくるのかを体験してほしい。	
	現代フランスの音楽事情	まず、フランスに関する基礎知識を学んだ上で、フランスと文化芸術ないしは音楽の関係について学習する。主に、「芸術音楽」と「ポピュラー・ミュージック」というふたつの側面から、現代フランスの音楽事情を学ぶ。また、視聴覚機器を適宜用いることで、現代のフランスにおいてどのような音楽が聴かれているのかを知る。そして最終的には、政治や社会と音楽の関係を考察する。	
	ミュージカル歌唱法	歌は自分を表現することであり、心と体をリラックスさせる。歌う為の基本的なトレーニングと発声練習やパート練習を行う。アンサンブルの楽しさを体感できるようハーモニーの美しさを情感豊かにミュージカルナンバーの数々を歌っていく。 また小休憩に練習している曲のDVDを鑑賞し、音楽の楽しさを学ぶ。	
	音楽の科学	音楽のもつ新たな一面として、人間と音楽の関係を科学的な視点から考える。はじめに、音楽の基本となる音や楽器について概説し、音楽を人間がどのように認識（知覚）しているのかを学ぶ。次に、最新の研究成果をもとに、音楽と脳科学の関係について理解を深め、最後に音楽の可能性として、音楽を医療や福祉の現場に活かす音楽療法について学習する。	
	先端芸術表現	原始美術から現代美術に至るまで、人類が飽くことなく続けてきた表現の諸相を概観する。美術史の流れに照らして、現在の様々な表現へとつながる文脈を解説する。その上で、先端芸術表現の背景にある時代性をふまえたいくつかの技法・材料による表現活動を行う。	
	自己発見アート	様々な方法で自己表現の可能性を追求する。鉛筆を使ったドローイングや、紙を使った造形、プロジェクターを使った現代美術の紹介や、アートや表現についてのディスカッション。	
	未来造形	未来について考え、話し合い、そこから生まれるイメージを絵本などの作品にして表現する。様々な素材や方法を使い表現の可能性を追求する。	

授 業 科 目 の 概 要

(経営学部 経営学科)

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通教育科目 基礎教養科目群 人文科学科目	日本舞踊に学ぶ着付けと作法	さまざまな動きを取り入れた日本人の文化遺産である“日本舞踊”を通して、和の心に親しみ、‘正しい姿勢とご挨拶’ ‘美しい所作を生む和服の着こなし’ ‘たおやかな立ち居振る舞いと心得’ …大人の女性として恥ずかしくない礼儀や作法を身につける。まずは簡単なわらべ唄を中心に踊りに親しむ(夏期には米国留学生との合同授業を行なう)。	
	ミュージカルの実践	本講義は、ミュージカルの上演に必要とされる概論・実践(演劇系・歌唱系・舞踊系)・レパートリーワークの並行学習にとどまることなく、上演を通して舞台知識・リハーサルメソッド等も学ぶことができるよう、プログラムされている。	
	歌舞伎鑑賞入門	歌舞伎は、江戸時代以来の歴史を持つ日本独自の演劇であるが、多種多様な娯楽があふれる現代においても、なお多くの観客に支持され続けている。時代の変化と共に新たな要素を盛り込み、現代も生き続けている歌舞伎の魅力を探るとともに、これから歌舞伎を見たい、どんな世界か知りたいといった初心者にも楽しめるよう、代表的な演目について、映像や資料を使い、エピソードも交えて、歌舞伎の見方を解説する。	
	日本の文化Ⅰ	The content of the course will place a significant emphasis on the students’ ability to view Japanese Culture critically, their own culture, and deconstruct any preconceived ideas. Students must be active in group discussion and present to the class on points of Japanese culture.  この授業は、主に「日本の祝日」「日本の歴史上の有名な人物」「日本の教育」「日本の田舎」「日本のポップカルチャー」について、先入観にとらわれずに見直し、自分達の文化を考察することに重点を置く。受講学生はディスカッションのグループに積極的に参加し、日本文化を授業で発表する。	
	日本の文化Ⅱ	The content of the course will place a significant emphasis on the students’ ability to view Japanese Culture critically, their own culture, and deconstruct any preconceived ideas. Students must be active in group discussion and present to the class on points of Japanese culture.  この授業は、主に「日本のおもてなしの心やマナー」「日本の文化遺産」「日本の芸術と手工業」について、先入観にとらわれずに見直し、自分達の文化を考察することに重点を置く。受講学生はディスカッションのグループに積極的に参加し、日本文化を授業で発表する。	

## 授 業 科 目 の 概 要

(経営学部 経営学科)

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通教育科目 基礎教養科目群 人文科学科目	遊びの人類学	遊びを論じようとするとき、むずかしいのが遊びの定義である。必ずと言ってよいほど引用されるのがJ. ホイジンガとR. カイヨワである。とくにホイジンガの『ホモ・ルーデンス』による遊びの特性はつとに有名である。これ以前にも、プラトンやソクラテスは遊びに注目し、早くから教育的価値を見出していた。初めに、これまでの遊び論について整理しながら、俯瞰的に見て行く。 次に、人類学、歴史学における世界各地の民族・集団における遊び現象についての豊富な事例研究の蓄積を分析することによって、遊びの当該社会においてもつ意味や価値について明らかにしていく。	
	SNSから日本語を見る	SNSで用いられている言葉は、一般的な書き言葉とは異なる表記・表現が多く用いられている。しかし、それらも私たちが日ごろ使っている日本語の一部であることに変わりはない。その特徴的な表記・表現を具体的に取り上げ説明する。そして、それらの多くは無秩序に現れるのではなく傾向が認められることを確認する。また、SNSという身近な言葉の面白さを知るために、ミニ調査を行い、ミニレポートを作成・発表する。	
	心理学入門	心理学の歴史や研究法を概観し、感覚、知覚、学習、記憶、パーソナリティ、発達、人間関係、感情などの心理学のさまざまな側面を幅広く学ぶ。	
	人間関係の心理学	まず、心理学の基礎と研究法を実践的に学ぶ。人間関係を心理学的に理解するためには、心理学研究法の理解が不可欠である。ここでは質問紙法をとりあげ、実際にグループで質問紙を作成する。このようにして心理学研究法への理解を深めたのちに、人間関係について考えていく。	
	環境心理学入門	私たちの心の働きは身の回りを取り巻くさまざまなものとの関係から影響を受けているが、その影響は必ずしも意識しやすい「モノ」との関係からとは限らない。人と人との距離、建物や通路の形が作り出す空間、コミュニケーションの方法など、意識化が難しいものからの影響も大きい。この講義では、私たちの心の働きを環境との関わりの中で考える。その際、環境とは地理的・物的な環境だけでなく、身の回りの他者に代表される社会的環境、インターネットなどの情動的環境、さらには、環境そのものが持っているシンボリックな意味を指す。また、取り上げるトピックは環境の知覚や空間行動などの基礎的な事柄から、環境問題や防犯・防災行動、SNSでの対人行動まで、比較的広範にわたる。	
	心理学実践演習	本授業では、実験法と質問紙法を用いて、心理学における「データを集める作業」と「それをまとめる作業」を体験する。	
	社会科学科目	差別と暴力のない世界をめざして	現代社会を生きる子どもと、子どもたちを取り巻く環境の検討から、人権感覚や平和を阻害している諸矛盾を解明することを目指す。そして、そこで明らかとなった今日的な課題を克服するのにふさわしい人権及び平和問題について研究活動を行い、その教訓を学び取る。そのことを通して、人権・平和文化が根差す新しい社会を形成していくことに貢献する共通教養のあり方を究明する。

## 授 業 科 目 の 概 要

(経営学部 経営学科)

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通教育科目 基礎教養科目群 社会科学科目	カウンセリングの実際	カウンセリングの実際について、現場の状況も織りまぜながら学ぶ。実践力を少しでもつけてもらいたいと考えているため、講義だけでなく、ペアになっての役割演技やグループでの話し合いを行う。	
	カウンセリングスキル	カウンセリングの基本技術を身につけてもらいたいと考えているため、実際にクライアント役、カウンセラー役を演じたり、グループディスカッションするなど、演習を多く取り入れる。	
	実践カウンセリング	こころのバランスを崩した状態や、難しい状況に陥っている人や家族を理解し、どのように支援するのかを学ぶ。 授業では、役割演技やグループディスカッションを取り入れる。	
	生涯福祉論	社会福祉制度を学習するときに、身近な生活をテーマを中心に事例、講師の日本やアメリカでの経験談、著書、資料、そして視覚教材を使用して授業を進めていく。項目によっては、日本とアメリカの事例、社会の出来事などの話題を提供することもある。また、グループワーク（話し合い等）を通して快い生活を送るために何が必要か、又は何が問題か課題であるのかなど制度だけではなく社会、生活や精神的な部分にも触れていく。	
	社会福祉とボランティア	授業で配布する「学習シート」を用いながら社会福祉の制度を学び、「生きる力」とは何かを考える。ボランティア活動の経験がない学生は、ボランティア活動の経験がある学生からその活動経験を聞き、学生同士で質問や意見交換を交わしながらボランティア活動について新たな考えや視点を持つ機会が持てるように授業を進めていく。また、グループワークとして、各班は高齢者施設の1つを選択し、ボランティア活動の企画案を考えてクラス内で紹介する。講義内容によっては、アメリカの事例（経験談を含む）を交じえ、資料なども回覧、紹介することがある。	
	福祉レクリエーションの実際	1. 福祉レクリエーションの実技を通じて、コミュニケーション技法を学ぶ。 2. 福祉レクリエーションの実技を通じて、高齢者や子どもや障がい者の現状を知る。 3. 福祉レクリエーションの実技を通じて、レクリエーションの意義や方法を学ぶ。	
	子育てと家族関係	現代社会における「家族」は女性のライフスタイルの変化などの影響を受け、その形態も変化してきている。家族の意味と機能をふまえ、子育てという選択を自らの人生の中でどのように位置づけるのか、また、家族の中の人間関係がどのように影響し合っているのかについて講述する。さらに、家族をとりまく現代的課題を紹介する。	
	「ふつう」を考える社会学	ある状態が「ふつうでない」とみなされる時、「問題」となる。現代にあらわれているさまざまな問題を取り上げ、「逸脱」の概念に基づいて、それがどのように「問題」となっていくのかを考察する。そこから、私たちのいう「ふつう」がいかに社会的、文化的、歴史的に規定されているかを理解する。	



## 授 業 科 目 の 概 要

(経営学部 経営学科)

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通教育科目 基礎教養科目群 社会科学科目	子育てと母性の気づき	母性本能、育児本能という言葉がある一方で、育児意欲の低下についての問題が世界的に一般化しつつあることも事実である。本講義では前半で子どもの発達について、特に変化の著しい乳幼児の身体発育、運動能力や感情の発達を、後半で母性に関するデータを紹介したり、子育て中の母親の問題をとりあげ、心理学的観点から講述する。	
	現代社会と憲法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各回の該当項目につき、パワーポイントで作成した資料を掲げつつ、要点を説明する。</li> <li>・主要な論点については、判例等の具体例を示しつつ、掘り下げた説明、ディスカッションを行う。</li> <li>・必要に応じて最新のトピックにも触れ、憲法の理念を日常生活の具体的事象に落とし込むプロセスを紹介する。</li> </ul>	
	外国から見た日本社会のしくみ	<p>This class will investigate and explain modern Japanese society and its people. In the process students will gain an appreciation for traditional Japanese culture and its place in modern Japan.</p> <p>この授業は、現代日本社会とそこに住む人々を研究し説明する。その過程で受講学生は現代日本の中の伝統的な日本の文化や場所を正しく理解する力をつける。</p>	
	都市形成のあゆみと都市生活	<p>都市の形成過程やそれとともに変遷してきた生活様式について、有史以前から現代までを時系列で学習する。図版・地図・写真等を多用し、視覚的にも理解しやすいような構成とする。</p> <p>事例を必要とする場合は、身近である西宮市および阪神間を主に取り上げる。</p>	
	消費者生活論	<p>日常生活に関わりの深いテーマを取り上げ、消費生活における問題やしくみ、対処法について解説する。消費生活に関連した資格取得も視野に入れ、消費者政策や法律を学び、消費者トラブルにあわないための正しい知識を習得できる内容とする。</p>	
	日本経済のしくみ	<p>This class will focus on the development of the modern Japanese economy and how that development has affected the daily life of the Japanese people. The class will provide students with an opportunity to investigate and discuss important aspects of the Japanese economy.</p> <p>この授業は、現代の日本の経済の発展と、どのようにしてその発展が日本人の日常生活に影響を与えたかに焦点をあてる。受講学生に日本経済の重要な側面を研究し討論する機会を与える。</p>	
	英語で学ぶやさしい経済学	<p>基礎的な経済学を英語で読み、英語の語彙力・表現力・読解力をつける。</p> <p>経済関連の英文の聞き取りを行うことで、英語のリスニング力をつける。</p> <p>現実の社会における経済関連の話題を英語で読み、ディスカッションを行い英語のスピーキング力をつける。</p>	
	英語で学ぶお金の知識	<p>パーソナル・ファイナンスに関する基礎的な知識を日本語と英語で学び、「将来、いかにお金とうまく付き合っていくか？」ということを学ぶ。</p>	

## 授 業 科 目 の 概 要

(経営学部 経営学科)

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通教育科目	基礎教養科目群	社会科学科目	我々の暮らしと日本の産業	本講義では、まず産業の定義や分類について明確にするとともに、日本において現在に至るまでの産業発展を達成した経緯を歴史的に概観する。次に、日本の主要な産業を取り上げ、各産業特有の現状と課題について解説する。また、産業情報の入手、分析方法についても示し、課題において各受講生が自ら興味ある産業を調査できるようにする。	
			教養としての法律	法律の初学者向けの講義であるため、日常生活に根差した具体的かつ現実的な事例をもとに、法律のしくみについて学ぶ。また、法律は時代とともに変化する学問であることを理解するため、講義では裁判員制度や法改正による選挙権者の年齢の変化など、最新の状況を反映したテーマを扱う。さらに、テーマに関連するもので、近時耳目を集める出来事があれば、積極的に取り上げる。	
			暮らしと法律	法律の初学者向けの講義であるため、日常生活に根差した具体的かつ現実的な事例をもとに、法律のしくみについて学ぶ。取り上げるテーマは、暮らしと関係をもとに大別して、人権・生活・犯罪の3つに分け、それぞれのテーマについて法律がどのように日常生活と関わっているのかを意識しながら、事例とともに学ぶ。また、テーマに関連するもので、近時耳目を集める出来事があれば、積極的に取り上げる。	
			世界の大学事情	社会制度としての大学やそこで行われる教育について考察を深めるため、日本を含め、先進国を中心に数カ国を取り上げ、大学をめぐる状況を紹介し、解説するとともに、社会における高等教育の意味づけや課題について考える。まず、各国における大学発展の歴史や進学率上昇といった変化が生じた社会的背景、変化への対応やそれに伴う課題などについて資料・データを紹介し、解説していく。さらに、OECDや文部科学省などの数値的データを中心にして、ここ四半世紀における大学進学状況の変化と、今日の高等教育の大きな流れ及び課題を把握できるようにする。	
			現代世界の教育	教育実践の視点から、現代世界の主な教育事情に注目し、それらにみられる特徴を明らかにし、世界の動向を知ることによって、日本の教育の課題について考える。主に、ヨーロッパ、アメリカ、アジアの国や地域の教育事情について、映像や資料をもとに進める概説とグループによる討論や活動を組み合わせて、世界の教育が有する世界観・教育観の多様性や背景を理解するとともに、日本の教育との違いを明らかにすることによって幅広い視野で物事を考えることができる力を養う。	

## 授 業 科 目 の 概 要

(経営学部 経営学科)

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通教育科目 基礎教養科目群	社会科学科目	現代社会は、科学技術（情報化）の進展に伴い、法令や制度（仕組み）だけでなく、社会通念も大きく変わってきた。インターネットの普及・活用、AIをはじめとした技術革新が拍車をかけ、技術や経済だけでなく、教育や文化においても大きな変化をもたらしている。その一方で、教育やメディア（情報）は、このような変革の推進力として利用されてきた歴史がある。その歴史を振り返るとともに、情報化が進む現代社会が直面している諸課題について考えるとともに、（1）教育の歴史や教育の新しい流れについて理解を深める。（2）AIをはじめとしたイノベーションに伴う諸課題について理解を深める。（3）情報化（科学技術の進展）に伴う諸課題（AIとの共存、個人情報保護と情報公開など）について、自らの考えを明確にできるよう、グループ討議や自主研究を行う中で多様な考えに接し、思考を深め、表現する力や協働的な課題解決の姿勢を養う。	
	社会科学科目	自らの健康に関心を持つことに加え、女性の健康に関連する社会問題に関心を持ち、子どもがどのように成長し、どんな身体的特徴を持っているかを考えることは女性のライフサイクルの中で重要な課題の一つである。女性のヘルスケアについては、思春期から老年期までの女性に特有な健康課題、さらに健康増進や疾病予防のためのセルフケアについて考える。また、子どものヘルスケアに関しては、子どもの成長に伴う身体的特徴、病気や事故の予防のための手立てや対策、罹りやすい病気や症状に対するケア方法、さらに近年、社会問題となっている子どもの虐待と権利についても考察する。 （オムニバス方式／15回） ⑤ 藤原千恵子／7回 乳幼児を含む子どものヘルスケア、子どもの権利と虐待について講義する。 ⑦ 本間裕子／8回 女性の身体的特徴と健康課題、健康増進や疾病予防のためのセルフケアについて講義する。	オムニバス方式
	自然科学科目	「生命」とは何か？ どのようにできてきたのか？ 自然とどのようにつながっているのか？ など、自分が毎日「生きている」ことをあらためて考えてみるテーマを用意する。ニュースなどで「生命」に関する報道を聞いた時に、考えたり調べたりする初めの一歩になると同時に、専門講義に不安のある学生にとって「生物学」「生命科学」への第一歩となるように講義する。 自分自身も「生命体」であることを再認識するために、非常に大きな視点である地球・自然から始まり、生命の基本単位に到達する。その基本単位がどのように「ヒト」の身体を構成するのか、様々な視点から解説する。最終的に、いま「生きている」意味・意義にまで言及する。	

## 授 業 科 目 の 概 要

(経営学部 経営学科)

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通教育科目 基礎教養科目群 自然科学科目	環境問題の歴史	21世紀の最大の課題は環境問題の解決である。21世紀に生きる皆さんに必要なものは、環境破壊や環境問題に関する知識と環境影響に対する秀でた感受性である。本講義では、古代ギリシャから現在までの環境問題の歴史を学びその教訓をいかに生かしていけばよいかを考える。 授業では、古代ギリシャ・ローマ、イスラム、中世ヨーロッパ、産業革命期、産業革命期以降の世界の環境問題の歴史を学ぶ。さらに明治以降の日本の環境問題の歴史も学ぶ。いかに環境問題が生じてきたかを学ぶことによって現代の環境問題を考える視点を養うことができる。さらに環境法とイノベーションの関係についても学ぶ。	
	科学技術の歩み	日本の繊維産業の興亡を通して、科学技術の進歩と経済の歴史を学ぶと共に現在の繊維産業が実は環境保全に欠くことができない産業である事を紹介していく。 授業の展開は、明治期の主要産業は絹製品、綿製品であり、さらに大正・昭和期にはレーヨン・スフという再生繊維に進歩し、太平洋戦争後には合成繊維が登場する経緯をトレースしながら、繊維を切口とした明治期以降の科学技術の進歩の歴史と経済の歴史を俯瞰する。	
	生命科学の基礎	21世紀は生命科学の時代といわれている。本講義は皆さんが興味を持っている血液型と性格の関係・恋愛と血液型の関係、さらに借り卵子や代理母などの生命倫理、またDNAの本質を社会学的な視点を保ちつつ理解することをめざす。 授業では、現代社会の生物的分野理解のために、細胞の発見からメンデルの法則・DNA発見までの歴史を概観する。さらに血液型人間学、生殖技術や借り卵子・代理母などに関する生命倫理を学ぶ。	
	生活の中の物理学	身の回りに見られる題材から、日常生活の素養となる物理学を習得する。論理的／数理的な考え方で自然を眺めたり、応用する力を養う。物理に限らず、科学的なリテラシー能力を得られるような広い話題から講義を進める。 授業では、虹はどうしてできるのか、飛行機はなぜ飛べるのか、電子レンジのしくみは、など素朴な疑問を大切に、日常生活の基礎に潜んでいる物理法則や理論をトピックごとに掘り下げて解説する。また、自然現象に対する純粋な興味・疑問を持ち続けることの大切さも伝えたい。 ものごとのしくみ・背景にある自然法則の理解を通じて、普段の生活をより一層味わい深いものにする。また、数量的な見積りや論理的思考を日常的に行う習慣を身につけ、擬似科学に騙されないような感覚を取得する。	
	最先端物理学が描く宇宙	相対性理論と量子力学が描く現代物理を中心に紹介し、最先端の宇宙像を紹介する。話題となる科学ニュースの解説も行う。	
	エコロジーと私たちの暮らし	環境問題のセオリーは、Think globally, Act locally!といわれる。本講義では、地球環境問題とその対策を考える。特に地球温暖化阻止のために我々はどうのような生活を送ったらベストなのかを共に考えていく。さらに諸君が将来就職する企業の環境保全の実態を紹介する。	

## 授 業 科 目 の 概 要

(経営学部 経営学科)

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通教育科目 基礎教養科目群 自然科学科目	微生物がつくる発酵食品の不思議	「微生物学」「化学」「生物学」「食品学」「食品加工学」の要素を合体させ、“発酵食品がどのように作られるのか？”また、“微生物の発酵作用によってどのような変化が生じているのか？”“そもそも微生物とは？”“私たちの生活に微生物はどのように関わっているのか？”などの疑問を問いかけ明らかにする。さらに、発酵食品以外の身近な加工食品についても言及する。	
	色彩情報	色彩は、企業活動での商品開発、販売促進やCIなどの局面で、また、公共空間のデザインや街づくり、都市計画の分野においても重要な役割を担っており、重要視されてきている。そこで本科目では、「色」を正確に表し伝達するために色の情報を処理する基礎を身につけることを目標とする。	
	科学から考える衣服と生活	被服生理、運動機能性、繊維素材、染色、洗浄、加工などの被服の科学系領域を講義する。授業全体の後半では、現代の衣生活において差し迫った課題であるファッションビジネスや福祉、環境保全に触れ、この授業で習得した科学的知識や考え方を、現在から未来の衣生活にいかに応用するかについて考える。	
	文化を創造する数学	人類の歴史は数学に支えられてきたといっても過言ではない。受験数学とは違う数学の世界を知的探究する。数学の発展を空間的・時間的視点から考察し、数学の知的探究について講義を行う。その知的体験を通して数学的な見方・考え方を身につける。	
	科学への入門	最先端の研究成果を取り入れつつ小・中学校で学んだ理科から発展させ、物理、化学、生物、地学の基本的な知識や科学的なものの見方、考え方について深め、全ての人々が理解する必要のある一般教養としての理科を身につける。この授業は次の2つの内容で構成されている。 (1) いくつかの日常生活で見られる自然現象をとりあげ、小・中学校で学んだ理科の知識や考え方をふまえて解き明かす。 (2) いくつかのトピックをとりあげ、科学の歴史や社会と科学の関わりなどの面から考察し、科学を人間の営みとして捉え直す。	
国際理解科目	韓国文化の理解	韓国・朝鮮半島における歴史の基礎知識を含め、「文化」というフレーム・ワークに注意を払いながら、韓国におけるサブ・カルチャーというものをテーマ別に分けて取り上げる。特に、現代の韓国文化だけではなく、その源泉ともなる伝統文化にも注目し、「韓国文化」全般に対する理解を深める。	

## 授 業 科 目 の 概 要

(経営学部 経営学科)

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通教育科目 基礎教養科目群 国際理解科目	中国文化論	第一部分「風土と環境」は、中国の住居、移動、民族について、「黄土高原」という独特な環境から生み出された文化、移動によって形成されてきた「中華民族」の古代から現在に至るまでの変遷を解明する。第二部分「家族と政治」は、中国人の家族内の呼び方から、家族・宗族制度のあり方、これらの制度がいかに政治の中に用いられ、維持してきたかを解説する。第三部分「伝承と変貌」は、中国文化を伝承する最も重要な媒体漢字の成り立ちとその面白さ、伝統的な教育と学術について、日本のそれらと比較しながら解説する。第四部分「教養と娯楽」は、教養として文学と絵画、人々の心を引きつける演劇の魅力を映像で伝える。第五部分「心と体」は、中国人の多様な宗教信仰を解き明かす。また、中国人のパワーの源であり、豊富な食材や味、卓越した技術で世界を凌駕する中華料理の魅力、中国経済の発展の秘密を迫る。	
	World English I	This course will examine the English language as it is used the world over. We will look at the history, use, and education of different dialects and varieties of English used in several geographic regions. Students will get the chance to see how English is used by both native and non-native speakers.  この授業は、世界で使用されている英語を考察する。英語の歴史や使用法や方言の教育、またいくつかの地方で使用されている多彩な英語を観察する。受講学生はどのようにして英語が母国語話者と母国語でない話者で使用されているかを観察する機会をもつ。	
	World English II	This course will examine the English language as it is used the world over. We will look at the spread and different spheres of use of the different varieties of English used in the world. Students will get the chance to see how English is used by both native and non-native speakers.  この授業は、世界で使用されている英語を考察する。世界で使用されている異なった多彩な英語の広がりやその範囲を観察する。受講学生はどのようにして英語が母国語話者と母国語でない話者で使用されているかを観察する機会をもつ。	
	世界の中の日本人	まず、自己イメージや自己形成に文化がどのような影響を与えているのか、また差別や偏見に文化がどのように関わっているのかについて概説する。その後、結婚や育児などの身近な事柄が、文化によってどのように異なるのか、また、日本や日本人は、他国と比較して、どのような特徴があるのかについて考察する。	
	国際協力入門	前半部に、国際協力が何故必要なのか、その目的は何なのかを検討する。その後、基本的な国際協力の歴史や仕組みを説明していく。後半は、具体的な事象を例として、前半部で修得した国際協力の仕組みが実際にどのように機能しているか、また問題点は何なのかなどを考察する。また、多くの学生が関心を持っている事項があれば、後半の内容を変更して議論することも検討し、学生の関心に応えるようにする。	

## 授 業 科 目 の 概 要

(経営学部 経営学科)

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通教育科目 基礎教養科目群 現代トピック科目	大学生活入門	大学での学修を確実なものにするには、日々の学習活動を支える環境についての理解と実践が不可欠である。本科目では、学術的観点や研究成果あるいは社会実践に裏付けられた「対人関係」「危機管理」「健康管理」「犯罪予防」「食習慣」などについて基礎を学び、テーマ毎に小レポート、小テストを実施し定着を図る。本科目での学びは、大学生活だけでなく、将来社会人として健全な社会生活を送る礎にもなる。	
	Japanese Culture Influence I	This course will examine the influence that Japan's popular culture has had in a global context. Students will explore this issue by researching and discussing a variety of different areas of Japanese art and pop culture.  この授業は、日本のポップカルチャーが世界の背景に及ぼした影響を観察する。受講学生は日本の芸術とポップカルチャーのさまざまな分野を再調査し討論することでこの課題を探求する。	
	Japanese Culture Influence II	This course will examine the influence that Japan's popular culture has had in a global context. Students will explore this issue by researching and discussing a variety of different areas of Japanese art and pop culture. Some topics from the previous class will be explored in greater depth, and new topics will also be introduced in this course.  この授業は、日本のポップカルチャーが世界の背景に及ぼした影響を観察する。受講学生は日本の芸術とポップカルチャーのさまざまな分野を再調査し討論することでこの課題を探求する。前期の授業のいくつかの項目について更に深く探求し、新しいトピックについても紹介する。	
	モラルジレンマから考える私	提示したモラルジレンマについて、グループごとに準備をして、他の班とディベートを行う。 モラルジレンマ例：道徳教育で使われるモラルジレンマ教材を参考にして、ディベート用のジレンマを設定する。それらについて、班ごとに賛成か反対かの意見をまとめ、班対抗のディベート大会への準備を行う。例えば、上半身は二人だが下半身は一人である赤ちゃんに対して、一人だけを助ける分離手術は許されるかなど、実話に基づいた課題もある。それ以外にも、現代の社会問題に関連したジレンマも設定していく。	
	女性のためのマーケティング	マーケティングとは顧客および市場の創造であり、商品サービスが売れるための総合的な仕組み・プロセスを構築することである。この科目ではマーケティングの定義や成り立ち、マーケティングの基本概念を身近な商品サービス事例と関連付けながら習得する。STPや3C、マーケティングミックス(4P)等の基本フレームだけでなく、サプライチェーンやリレーションシップ、ブランドマネジメント、ソーシャルマーケティング、サービスマーケティングなど、マーケティングの応用理論のエッセンスについても身近な事例と関連付けながら習得する。	

## 授 業 科 目 の 概 要

(経営学部 経営学科)

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通教育科目  ジェンダー科目群	アジアのなかのジェンダー	アジア諸国のジェンダー問題に関する教科書の他、新聞記事や統計資料を使用して、これらの国々の歴史上のジェンダー問題や、今日の教育、労働、結婚の状況や問題について考察する。	
	ジェンダーとアイデンティティー	近現代の恋愛、結婚、労働における女性の状況について考察する。さらには日本における主要なジェンダー問題の一つとして、女性の貧困問題について検討する。	
	女性と教育	家庭教育や学校教育に見られる様々なジェンダーバイアスについて情報を得た上で、自らの経験や現状を振り返ることによって、教育の現状に「気づく」。	
	メディアに見るジェンダー	女性が被害に合うことが多いドメスティック・バイオレンスや女性に多い依存症、また母娘問題などの身近な問題を、漫画やエッセイを通して学習する。また、固定観念やイメージがいかに関ジェンダー意識に影響を与えているのかを、メディアを通して検討する。尚、この授業は双方向型・参加型の手法を用いる。	
	女性の身体とセクシュアリティ	まず、ジェンダーに関する理論や社会状況、セクシュアリティに関する概念や現状、問題について概説する。その後、女性に関わる問題や女性が罹りやすい病気や障害についての情報を共有し、それらへの対処法について考察する。	
	女性と家族のゆくえ	現在女性と家族に現れている問題をテーマごとに、社会的な視点から考察する。前半は現代の問題について、後半は新しい問題について取り上げる。それらの問題を研究対象としてのみ見るのではなく、生きている個人の問題として引き受けながら、その意味を考えていく。	



## 授 業 科 目 の 概 要

(経営学部 経営学科)

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
共通教育科目	キャリアデザイン科目群	文章表現の基礎	<p>「論じる」スタイルの文章作成技法を学習する。作文とレポートは何が異なるのか、「論理的な文章」とはどのようなものかなど、基本的な知識からわかりやすく解説する。簡潔に説得力のある文章を作成する方法を習うと同時に、段階的に小テストや小論文を通して実践的に文章を書く機会を設けている。</p> <p>前半では、レポートに適切な表現と不適切な表現、構成の立て方、接続語の使用法、事実説明文と意見との書き分けなど、整った文章を作成するために必要となる基礎的な知識を学ぶ。後半では、参考文献利用上の注意、引用の方法など、より本格的なレポートを作成するための技法を学ぶ。</p>	
		プレゼンテーションの基礎	<p>自身の意見を論理的に説明し、プレゼンテーションで他者へ伝える技法を学ぶ。</p> <p>前半では、プレゼンテーションの様子をビデオ撮影し、授業内で振り返りフィードバックする。</p> <p>中盤の講座では、身近な話題を用いた例文を使用し、毎回演習形式で論理の基礎を学んだうえで、グループ間での話し合いや議論により、実践的に表現力・説明能力・論理力・批判力・主張を行う力を養う。</p> <p>後半では、企画書の作成技法を修得し、前半、中盤で修得したことを応用したプレゼンテーションをする。</p>	
		日本語表現の基礎	<p>現代を生きる教養人として必要な、基本的な言語表現能力を習得することを目的とする。</p> <p>表現行動（言語行動と非言語行動）の基盤を確認した上で、話しことばと書きことばの両面にわたって基本知識を学習し、可能な限り実践的な練習を行いたい。</p>	
		自己アピールトレーニング	<p>社会や企業から求められる人材を知り、その上で自分の長所を明確に出せるプレゼンテーションが面接等でできるよう、発声、立ち居振る舞い、敬語、スピーチトレーニングを行う。実技や実践に重きを置き、フィードバックすることにより確実にスキルを身に付ける。</p>	
		女性のためのライフプランニング	<p>近年、女性をとりまく環境は大きく変化し、人生のターニングポイントを意識したライフプラン作りが重要になる。学術的成果に基づいて、労働・結婚・子育て・ファイナンシャルプラン、さらには離婚などの現状を理解し、自己分析を通じてライフプラン作りの基礎を学ぶ。さらに、自らのライフプラン実現に伴う課題を見極め、グループディスカッションなどを通じて、多面的な視点から課題解決能力の形成を図る。</p>	
		キャリアビジョンと人物評価	<p>雇用情勢は、有効求人倍率や失業率といったマクロ統計と密接に関連し、日本経済の動向を知るための大きな手がかりの一つである。この授業では、日本の雇用情勢や経済動向を俯瞰し、将来に向けたキャリアビジョンを描くとともに、ビジネスにおける意思決定手法の一つであるSWOT分析を適用した人物評価の技法を理解し、構造化面接法を用いて相互理解のあり方を実践的に学ぶ。</p>	

## 授 業 科 目 の 概 要

(経営学部 経営学科)

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通教育科目 言語・情報科目群 言語リテラシー科目	英語コミュニケーションⅠ	本科目は演習形式で授業を進める。英会話学習が初めての学生が、初歩的な英会話力を身につけ、身近な話題について積極的に話すことにより、英語で話す楽しさを実感できるようになることを目的とする。他の受講者や外国人講師と積極的にコミュニケーションをとることにより、英会話の基礎力を身につけ、日常会話の初歩を習得することを目標とする。本科目は外国人講師が担当し、授業は全て英語で行う。好きなスポーツやテレビ番組等、身近な話題を通して、簡単な英語表現を使ったアクティビティを行う。	
	英語コミュニケーションⅡ	本科目は演習形式で授業を進める。英会話学習に興味がある学生や一定の英語力のある学生が、日常英会話の基礎を身につけることを目的とする。他の受講者や外国人講師と積極的にコミュニケーションをとることにより、身近な話題を英語で表現できる基礎的な英会話力を習得することを目標とする。本科目は外国人講師が担当し、授業は全て英語で行う。アクティビティを行いながら、休日の過ごし方や旅行の計画等、身近な話題に関する簡単な表現を学び、英語で意見を述べる。	
	英語コミュニケーションⅢ	本科目は演習形式で授業を進める。英語での会話を楽しいと感じられる程度の英会話力を持った学生が、会話をさらに広げていく技術を習得することを目的とする。他の受講者や外国人講師と積極的にコミュニケーションをとることにより、自然で流暢な英会話力を習得することを目標とする。本科目は外国人講師が担当し、授業は全て英語で行う。ファッションやマナー等、様々なテーマについて積極的に意見を述べ合う。	
	英語コミュニケーションⅣ	Students will discuss about interesting current issues and expand their knowledge about how they contribute to the trends in Japan and internationally. The focus of this course is to increase the students' knowledge of the ways that fashion, entertainment, history and popular culture connect to past and current trends. Students will practice their skills of critical thinking and learn to express their opinions clearly as they present and discuss information together.  本科目は演習形式で授業を進める。社会の流行について興味のあることや意見を持っていることについて話し合うことを目的とする。ファッション・エンタメ・歴史や人気の文化が過去から現在にどのように結び付いてきかを知識として学ぶことを目標とする。議論を通じて批判的思考力を磨き、明確に意見を述べる練習をする。	

## 授 業 科 目 の 概 要

(経営学部 経営学科)

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通教育科目 言語・情報科目群 言語リテラシー科目	英語リーディングⅠ	本科目は演習形式で授業を進める。英語は初級レベルの学生が、まずはパラグラフの構造や読み方のコツを知り、効率的、かつ確実に内容を理解できるようになることを目的とする。パラグラフの構造に様々なパターンがあることや見落としてはならないポイントを押さえる。そのような学習を通じて、長文を読むことに自信をつけることを目標とする。比較的平易な語彙を用い、2～4つのパラグラフで構成された読み物について、背景知識を得た後、実際に読み進める。その過程で構造や読み方のポイントを押さえる。定期的に語彙・文法の確認を行ったり、応用問題を解くことを通じて、語学力の定着・発展をはかる。	
	英語リーディングⅡ	本科目は演習形式で授業を進める。英語は中級レベルの学生が、現在進行する社会問題等についての英文を正確に早く読めるようになることを目指し、英語文献も理解できる能力の向上を図ることを目的とする。時事関連文書の理解に必要な語彙、表現を身につけるとともに語句のつながりを意識しながら正確に素早く読めるようになることを目標とする。現代社会が抱える様々な問題についての英文を読みながら読解を中心に授業を行う。	
	英語ライティングⅠ	本科目は演習形式で授業を進める。メールやLINEメッセージなどの日常的なライティングをはじめ、ネット利用の際に発生する「書く」やりとりにも活用できる語彙やフレーズを、上質な英文を「読む」過程で習得し、短いセンテンスであれば自分の意見を伝えることができるライティング基礎力を育むことを目的とする。単なる和文英訳ではなく、自分の意思や希望、意見を適切に伝えるために必要な文法規則を体系的に会得し、英文ライティングに応用する力を身につけることを目標とする。短いエッセイや物語を読み、ライティングに必要な項目（語彙・フレーズ・文法など）を学び、与えられるテーマや語彙数に合わせたライティング練習を、適切に添削を受けながら、繰り返し行う。	
	英語ライティングⅡ	本科目は演習形式で授業を進める。エッセイやニュース記事を読みながら、使用語彙・表現・パラグラフの成り立ちなどに焦点をあて、論理的に自分の意見を書くために必要な文章構成力を身につけることを目的とする。短いセンテンスを正確に書く練習を繰り返すと同時に、音声言語・文字言語の違いを語彙レベルで確認し、より自然な英文を書く力を身につけることを目標とする。課外学習として、与えられるテーマや語彙数に合わせ仕上げるライティング課題を、ペアワーク・グループディスカッションなどを通じ発表することで読み手の理解も並行して確認する。また合わせて辞書の有効な使い方、文章で用いるコンマ等、記号の正しい使用方法についても学ぶ。	
	TOEIC演習Ⅰ	本科目は演習形式で授業を進める。本科目をTOEIC初級レベルと位置付け、各設問形式に慣れることを目的とする。テキスト内の初級頻出語彙力を同時に身につけ、リスニングでは、問題についての瞬時の状況把握や問題予測、疑問詞の聞き取り、会話・アナウンス等の大筋の把握を、リーディングでは、文法・構文問題を解くための基盤作り、やスキミング・スキミング等のスキルを習得することを目標とする。演習問題を通じ設問形式に慣れると共に、制限時間を意識したタイム・トライアル演習や大事なポイントを速く探す練習等を通じ、スキルと英語力の両方で目標をクリアできるようにする。	

授 業 科 目 の 概 要

(経営学部 経営学科)

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通教育科目 言語・情報科目群 言語リテラシー科目	TOEIC演習Ⅱ	本科目は演習形式で授業を進める。基礎的な英語力があり、TOEICの試験形式にある程度慣れている学生を対象として、さらなるスコアアップを目指すことを目的とする。各パートの頻出表現、出題パターンだけでなく、リスニングでは、全体的な内容を理解したり、必要な情報を聴き取るコツ、リーディングでは限られた時間内にできるだけ多くの情報を正確に処理する能力を養うことを目標とする。TOEICに頻出する単語、表現を学び、各課終了後に小テストを行う。	
	TOEIC演習Ⅲ	本科目は演習形式で授業を進める。推測や同意語を導き出す設問等、難易度が高い問題に数多く取り組むことにより、一層のスコアアップを目的とする。TOEICの両パートともに中・高難易度の演習問題に触れ、70～75%以上の正答率を保持することを目標とする。授業では模試演習問題を解く。リスニングでは設問を解くだけでなく、口頭応答練習や要約等を行う。また、文法問題の解答の根拠を発表したり、読解問題の要約等を行うことで、活気あるアクティブ・ラーニングの場を持つ。	
	TOEFL演習	本科目は演習形式で授業を進める。大学・大学院を目指している人や、よりアカデミックな内容の英語を学びたいという人が、その第一ステップとしてTOEFLの形式並びにポイントを学び、TOEFL-ITPの3 Sectionで求められる力を習得する事を目的とする。TOEFLに必要な語彙力・リスニング力・読解力の基礎を習得することを目標とする。Section 1対策としてリスニングのPartA, B, C、Section 2で問われる文法知識、Section 3対策となる300～400wordsの長文読解、問題等を始めとするTOEFL-ITP形式の問題に取り組みながら、テストの様式に慣れる。	
	Speaking & Listening I	<p>The focus of the speaking and listening class is to help students practice different strategies of communication for successful interactions. Another objective of this class is to help students hear language they already know but may not be able to produce when they speak. In other words, aspects of speaking and listening skill building can be immediately applied to real discussions as students recycle the words they learn. The goal to help students immediately improve their ability to communicate in situations where they know what they want to say but have not completely found the manner in which to say it.</p> <p>本科目は演習形式で授業を進める。対話を成功させるための様々なコミュニケーション方法を学び、聞きとれるが話せない表現を話せるようにすることを目的とする。学んだ表現をすぐに会話の中で繰り返すことによってスピーキングとリスニングのスキルを向上させる。様々なシチュエーションでのコミュニケーション能力を短期間で身に着けることが目標である。</p>	

授 業 科 目 の 概 要

(経営学部 経営学科)

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通教育科目 言語・情報科目群 言語リテラシー科目	Speaking & Listening II	<p>Using the skills from Speaking and Listening 1 class, students will continue to build strong communication skills during this term. The first objective is for students to develop the speaking strategies necessary to have fluent conversations in a variety of advanced situations. The second objective is for students to develop the listening proficiency to understand natural English as it is actually spoken. By practicing these skills, students will be able to communicate effectively and confidently.</p> <p>本科目は演習形式で授業を進める。Speaking &amp; Listening I で学んだスキルを使い、コミュニケーションスキルのさらなる向上を目的とする。スピーキング力を高め、複雑なシチュエーションでスムーズな会話ができるようになり、またリスニング力を高め、実際に話されているような英会話を聞き取れるようにすることを目的とする。このようなスキルを磨くことで、効果的かつ自信を持ってコミュニケーションがとれることを目標とする。</p>	
	Speaking & Listening III	<p>Using the skills from previous speaking and listening classes, students will continue to build strong communication skills during this term. The goal of this course is to increase the students' confidence to express their opinions clearly as they describe their personal experiences and ideas in English. Students can accelerate their progress in speaking and keep a record of their own learning with technology tools that will be introduced in this class. This generation of learners can enjoy more opportunities to use English inside and outside of the classroom.</p> <p>本科目は演習形式で授業を進める。これまでのSpeaking &amp; Listeningの授業で学んだコミュニケーションスキルのさらなる向上を目的とする。英語で自身の経験やアイデアを用いながら、意見を発する自信をつけていくことを目標とする。学生はスピーキング力の達成状況を記録するツールを使い、学習を進める。授業内だけでなく授業外でも英語を使う機会を増やす。</p>	
	Basics for Presentation I	<p>本科目は演習形式で授業を進める。バランスのとれた高い英語力(話す・聞く・書く・読む) + 社会人基礎力を身につけることを目標に3年間に渡り学習を継続するチャレンジコースにおいて、プレゼンテーション能力は必須である。コース初年度にそのベースを築くために必要な項目をテーマ毎に学びながら、実際のスピーチを繰り返し行い「人前で話す」ことに慣れる訓練を行うことを目的とする。TOEIC 550-600点程度の英語力の習得と、腹式呼吸を身につけ適切な音量で話すことができ、英語で簡単な内容のスピーチを行えることを目標とする。「発信するスピーチ」の練習と講演会などの司会進行の方法を学ぶ。</p>	

## 授 業 科 目 の 概 要

(経営学部 経営学科)

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通教育科目 言語・情報科目群 言語リテラシー科目	Basics for Presentation II	本科目は演習形式で授業を進める。バランスのとれた高い英語力（話す・聞く・書く・読む）＋社会人基礎力を身につけることを目標に3年間に渡り学習を継続するチャレンジコースにおいて、プレゼンテーション能力は必須である。コース初年度にそのベースを築くために必要な項目をテーマ毎に学びながら、実際のスピーチを繰り返し行い「人前で話す」ことに慣れる訓練を行うことを目的とする。TOEIC 600-650点程度の英語力習得と、英語で即興スピーチを行ういながら聴衆の反応をコントロールすることを目標とする。前期に引き続き、短いスピーチを繰り返し行うとともに講演会などの司会進行の方法を学ぶ。	
	Grammar for Communication	本科目は演習形式で授業を進める。基本的な文法事項を復習し、リーディング力の向上を目的とする。文法演習により文の構造への理解を深め、特に精読するための読解力を養うことと、暗記や、置き換えに頼ることなく、自分の意見を述べるができることを目標とする。自分の意見を的確に述べるために必要な「フォーマット」としての英文法を学び、各文法事項の練習問題を解き、学生の理解度が不十分な箇所の解説を行う。	
	Reading & Writing	学生のレベルに合わせたリーディング課題をプリント配布し、フレーズリーディングを通して、その中で使われている語彙、文法、構文などのポイントを解説する。また、英文を書く時に、日本人が間違いやすい表現に焦点をあてながら、基本的なパラグラフ・ライティングを練習する。	
	Presentation I	Step by step, learning to give a presentation is a satisfying way to use English to communicate effectively. Within this class, some of the topics that will be explored include media & technology, society & relationships, healthy & environment, travel & culture and education. Students can choose topics that are specific to their majors or their personal interest.  段階を踏んでプレゼンテーションを学ぶことは英語での効果的なコミュニケーションに役立つ。テーマはメディアとテクノロジー、社会と人間関係、健康と環境、旅行と文化、教育などを取り上げる。	
	Presentation II	Step by step, learning to give a presentation is a satisfying way to use English to communicate effectively. Within this class, some of the topics that will be explored include media & technology, society & relationships, healthy & environment, travel & culture and education. Students can choose topics that are specific to their majors or their personal interest.  プレゼンテーション I での学びを発展させ、プレゼンテーションスキルのさらなる向上を目的とする。学生は各々の専攻や関心のあるテーマを選んで、学ぶことができる。	
	English for Careers	広義にcareerの意味を捉え、仕事や日常生活の中で英語の使用が要求される場面に適切に対応できる英語力を身に付けることを目的とする。さまざまな場面を想定し、実践的なコミュニケーション練習を行う。	

## 授 業 科 目 の 概 要

(経営学部 経営学科)

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通教育科目 言語・情報科目群 言語リテラシー科目	Reading & Discussion	リーディングに必要な技能を学ぶ。英語圏の文化や社会を紹介する資料を講読し、授業中の討論を通して、各自の考えをまとめ、発信する力を養う。	
	Current Events I	Current events are reported in newspapers, online news sources, radio and television from all different viewpoints. It is an important skill for students to look at different sources as they gather information to make their opinion stronger. Current trends and popular opinions need to be evaluated for their influence on students' ideas, which is an important activity that students will do throughout this class.  時事問題は新聞やインターネット、ラジオ、テレビなどの媒体で様々な角度から報道されている。学生が自分の意見を強固なものにするためには多様な情報源から情報を収集する、というのが重要なスキルである。流行や人気のある意見がどのように学生の考えに影響を与えているか検証することが必要であり、学生には授業でこの課題に取り組んでもらう。	
	Current Events II	The contents of this course focus on preparing students to be well informed about the good and bad points of current events in the areas of education, employment, health, culture and religion. There will be an emphasis on communicative awareness as students describe their understanding about each topic and who is connected to this event. Students will identify different viewpoints about specific groups of people that are affected, such as minority groups, refugees, children and the elderly.  この科目では教育、雇用、健康、文化、宗教の時事問題の良い点と悪い点について認識を深める。学生は各トピックについて各々が理解している内容とどのような人がその問題に関係するかについて説明を求められるが、その際、異なる言語、文化的背景の人々とコミュニケーションするための理解力が重視される。学生は、時事問題に影響を受ける様々な人々、例えばマイノリティグループや難民、子ども、高齢者それぞれの視点を学ぶ。	
	Reading & Critical Thinking	さまざまなトピックに関連する英文を読み、英語圏の文化や社会の理解し、その内容を把握する。クリティカルシンキングの力を養う。英文を読み、その内容を理解する。それぞれのトピックについての自分の考え方をまとめる。討論を通じて、自らの考えを客観的・論理的に発信する。	
	Global Communication I	Students will learn useful English words, structures, expressions and pronunciation. Students will be given many chances to use English through "active learning" tasks such as interactive and communicative activities including conversations in small groups and various oral presentations or performances.  英語でよく使われる単語や構文、表現、発音を学ぶ。グループでの会話やプレゼンテーションなどの双方向のおよびコミュニケーション的課題によるアクティブラーニングの授業によって学生が英語を使う機会を多くもうける。	

## 授 業 科 目 の 概 要

(経営学部 経営学科)

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通教育科目 言語・情報科目群 言語リテラシー科目	Global Communication II	<p>The content of the course will be adapted to meet the needs, interests, and goals of students. We will cover a variety of issues that several regions in the world are facing today. Although the instructor will choose some important topics to include in lessons, students will have the freedom to choose their own theme or issue to research and share with the class as well.</p> <p>内容は学生のニーズ、関心、目標に対応する。世界の様々な地域が直面している問題を取り上げる。講師もいくつか重要なテーマを授業で取り上げるが、学生も自身の関心に沿ったテーマを選んで研究し、授業で発表することができる。</p>	
	Career Workshop	<p>大学入学後から現在までの自身を振り返り、卒業後の進路についてどのように思いが変化したか（あるいは一貫していたか）について自身の言葉で語り、グループで討論しながら、自らの考えを明確にするとともに仲間の意見を通じて新たな考え方や新領域について学ぶ。</p>	
	Writing for Daily Use	<p>The content of the course will be adapted to meet the needs, interests, and goals of students. We will cover a variety of topics in the writing activities including hobbies and daily life, career plans, job interviews, future goals, role models, and travel.</p> <p>内容は学生のニーズ、関心、目標に対応する。ライティングのテーマは趣味、日常生活、キャリアプラン、就職の面接、将来の目標、ロールモデル、旅行など多岐に渡る。</p>	
	ドイツ語 I	<p>本科目は演習形式で授業を進める。ドイツ語の骨組みを修得することを目的とする。この授業を通じて受講生が、ドイツ語テキストの理解やコミュニケーションの際に必要な知識を獲得し、客観的な指標としては、ドイツ語検定試験5級に合格可能な能力を身につけることを目標とする。ドイツ語をはじめて学ぶ人に、発音・文法の説明・練習を通じてドイツ語の読解力・コミュニケーション能力を養成する。ドイツの文化や価値観に興味を持てるように、コラムやビデオ教材を使い様々な情報を積極的に紹介する。</p>	
	ドイツ語 II	<p>本科目は演習形式で授業を進める。ドイツ語 I で習得した骨組みに肉付けをほどこし、I で省いた文法知識を補うとともに、単語面でも充実をはかることを目的とする。異文化に関する知識の理解とドイツ語中級文法の習得し、客観的な指標としては、ドイツ語検定試験4級に合格可能な能力を身につけることを目標とする。グリム童話からの4つの話をドイツ語で読む。自分で辞書を頼りに訳し、簡単な文を覚えたり、内容についてドイツ語で答えたりする。</p>	
	フランス語 I	<p>本科目は演習形式で授業を進める。フランス語の骨組みを修得する。テキストをもとに、「聞く・話す・読む・書く」の技能全般をバランスよく学習することを目的とする。学生がフランス語で自己紹介ができ、フランス語検定5級を受験できる程度の文法を習得することを目標とする。「暗記」よりも受講生の「理解」を前提とし、授業の指針とする。フランスのさまざまな風俗、習慣、文化等の最新情報を紹介していく。</p>	



## 授 業 科 目 の 概 要

(経営学部 経営学科)

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通教育科目 言語・情報科目群 言語リテラシー科目	フランス語Ⅱ	本科目は演習形式で授業を進める。Ⅰで修得した骨組みに肉付けをほどこし、Ⅰで学習しきれなかった文法知識を補うとともに、単語面でも充実をはかることを目的とする。フランス語での簡単な会話ができ、絵本など簡単なものであれば原書で読め、フランス語検定4級に合格可能な能力を身につけることを目標とする。「暗記」よりも受講生の「理解」を前提とし、授業の指針とする。フランスのさまざまな風俗、習慣、文化等の最新情報を紹介していく。	
	中国語Ⅰ	本科目は演習形式で授業を進める。中国語の発音、文型を習得し、テキストに基づいて「聞く・話す・読む・書く」の技能全般をバランスよく学び、総合的な中国語力を身につけることを目的とする。正しい発音と基本文法を理解し、基礎的な「聞く、話す、読む、書く」表現を習得することを目標とする。中国語の発音表記（ピンイン）及びアクセント（声調）の学習、発音練習、基本文法の学習を経て、中国語の初歩的なコミュニケーション能力を養っていく。	
	中国語Ⅱ	本科目は演習形式で授業を進める。中国語Ⅰで学習した内容を定着させ、文法の知識を深めるとともに語彙力を高め、「聞く・話す・読む・書く」総合的な能力を向上させることを目的とする。簡単な日常会話や、簡単な文章・物語の読解ができるようになり、「中国語検定試験」「HSK漢語水平考試」の受験が可能な能力を身につけることを目標とする。テキストに加え、映像などの補充教材を活用することにより、中国語のバックグラウンドである中国文化、風俗習慣、現代中国事情にも触れ、中国語への理解を更に深める。	
	イタリア語Ⅰ	本科目は演習形式で授業を進める。イタリア語の骨組を習得し、イタリアの生活文化に触れ、大筋を理解することを目的とする。イタリア語特有の発音や、活用と語尾変化の基礎などをしっかり押さえた上で、簡単な日常会話の発話練習を行い、基礎力を定着することを目標とする。イタリア語の初歩を、文化的背景を交えつつ、旅行先などでの状況設定を使い、楽しく会話方式で学ぶ。カンツォーネや映画の視聴、イタリア語の絵本や新聞記事も紹介し、イタリア文化にも触れる。	
	イタリア語Ⅱ	本科目は演習形式で授業を進める。レベルA1（ヨーロッパ言語共通参照枠）のイタリア語を使いこなせることを目的とする。コミュニケーションの表現の繰り返しを通して、イタリア語での会話ができるようになることを目標とする。中級程度のイタリア語を、文化的背景を交えつつ、留学先などでの状況設定を使い、会話方式で学ぶ。カンツォーネや映画の視聴、イタリア語の絵本や新聞記事も紹介し、イタリア文化にも触れる。	
	スペイン語Ⅰ	本科目は演習形式で授業を進める。スペイン語文法の基礎を身につけ、平易な文章の理解及び簡単な日常会話の習得を目的とする。直説法現在形のみならず命令形も学び、それを用いて簡単な表現を理解し、基本的な会話表現ができるようになることを目標とする。各課で取り上げられる語彙や文法事項を用いてそれぞれが問題を解くに留まらず、ペアワーク・グループワークなどを通じてさらに理解を深めることを目指す。	

## 授 業 科 目 の 概 要

(経営学部 経営学科)

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通教育科目 言語・情報科目群 言語リテラシー科目	ハングル I	本科目は演習形式で授業を進める。韓国語の基礎を習得することを目的とし、特に「聞く・話す」に重点を置いた授業を行う。文法は、過去表現・推量表現までの習得をめざし、韓国旅行をしたり、韓国人の友達を作る等、人間関係を結べる最低限の韓国語の習得コミュニケーション能力を身につけることを目標とする。最初にハングル(文字)を習得し、ハングルを使って音声・会話中心に学習を進める。授業中の学習効果を高めるために、2～4人のチームによる協働学習を導入する。	
	ハングル II	本科目は演習形式で授業を進める。韓国語での意思疎通に必要な中級の語尾や語彙を習得し、会話や情報発信能力の向上を目的とする。韓国人と円滑なコミュニケーションを取れる韓国語能力や、韓国文化への理解を目標とする。文法は、最初にへヨ体・助動詞・連体修飾について説明したあとで、テキストに沿ってさまざまな語尾や表現を学ぶ。文法事項の習得の後、会話練習を行う。2～3人のチームによる協働学習を導入する。また、日本の文化や、西宮市や兵庫県の名所などを韓国語で紹介する練習も行う。	
	手話	自己紹介や、時の表現・疑問詞を使った会話、生活場面を設定した会話の練習などを通じて手話を習得する。DVDなどの視覚教材も使用する。講義では手話の歴史及び特徴、聴覚障害者の生活について学ぶ。	共同
	特別英語演習 I	アメリカ(ワシントン州スポケーンにある武庫川女子大学のアメリカ分校Mukogawa Fort Wright Institute)またはオーストラリアで集中的に英語および異文化の研修をする。授業は午前中英語を中心に学び、午後は文化理解のための授業や文化活動に参加する。	
	特別英語演習 II	アメリカ(ワシントン州スポケーンにある武庫川女子大学のアメリカ分校Mukogawa Fort Wright Institute)またはオーストラリアでの研修を一度経験した学生が、二度目の研修を受ける場合にこの科目を受講することができる。基本的な流れは初めて参加する学生の受講内容と同じであるが、英語のレベルは演習Iよりも高いレベルを指導する。	
	特別中国語演習 I	中国(台湾)の協定大学で2週間の中国語および中国文化の研修を行う。主に午前中は基本的な中国語の文法・会話を学び、午後や週末は伝統文化体験や中国(台湾)人学生との交流を通して、中国文化を多角的に理解する。	
	特別中国語演習 II	中国(台湾)の協定大学で2週間の中国語および中国文化の研修を行う。主に午前中は基本的な中国語の文法・会話を学び、午後や週末は伝統文化体験や中国(台湾)人学生との交流を通して、中国文化を多角的に理解する。中国語のレベルは演習Iよりも高いレベルを指導する。	
	特別ハングル演習 I	韓国の協定大学で韓国語および韓国文化の研修を3週間行う。授業は韓国語の会話、聴き取り、読解、作文の4技能を集中的に学習する。午前中は韓国語授業を受講し、午後には韓国語の伝統文化を実体験する。	
	特別ハングル演習 II	韓国の協定大学で韓国語および韓国文化の研修を3週間行う。授業は韓国語の会話、聴き取り、読解、作文の4技能を集中的に学習する。午前中は韓国語授業を受講し、午後には韓国語の伝統文化を実体験する。ハングルのレベルは演習Iよりも高いレベルを指導する。	

## 授 業 科 目 の 概 要

(経営学部 経営学科)

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通教育科目 言語・情報科目群 情報リテラシー科目	グラフィックデザイン基礎	イラストレータでのデザイン実習から、オリジナル作品の制作を行う。 初期は図形描画技法を実習し、オリジナルマークを制作する。 中期は文字・段落の表現技法を実習し、オリジナルCDラベルを制作する。 後期は立体表現やグラフ描画など発展的な制作手法を学ぶ。	
	フォトタッチ基礎	フォトショップでの写真加工実習から、オリジナル作品の制作を行う。 初期は描画機能と文字機能を実習し、オリジナルバナーを制作する。 中期は写真の合成手法を実習し、オリジナルのファンタジー写真を制作する。 後期は汚れの除去や色調の補正手法を実習し、オリジナルの合成写真を制作する。	
	Webデザイン応用	前半はサイト例題にそってWebサイトの制作手法を中心に学ぶ。 後半はWebサイトに不可欠な画像のデザイン、JavaScriptなどのインタラクティブな要素について学ぶ。さらに制作したWebサイトのデータを、Webサーバーにアップロードする手順を学ぶ。	
	Scratchによるプログラミング	プログラミングというと難しく感じる人が多いですが、先に述べたようにブロックをマウスを使って組み合わせて行くだけなので、全くの初心者でもいとも簡単に短時間でゲームやアニメーションなどを作成することができます。 この授業ではScratchの操作方法やプログラミングの考え方について学ぶことに主眼を置きます。	
	情報社会を生きる技術	インターネットの仕組み、情報セキュリティ、その他、その時々に応じてトレンドな項目について取り上げ、解説し必要に応じて演習を行う。 授業中に小テストを2, 3回実施する。	
	Accessデータベース基礎	データベースの設計から基本的なデータベースの作成、データベースの活用までを、実習を交えて解説する。 毎回、授業の前に10分程度、タッチタイプの練習を行う。	
	データサイエンス入門	本科目はマルチメディア館の演習室で、実際にパソコンを使用した演習形式で行う。教科書に指定したテキストおよび配布資料をもとに各テーマの内容を説明し、その後、実際にExcelを利用してテキストの例題や演習問題の解析を行う。授業内で行った演習ファイルは提出してもらい、理解度の確認をしながら授業を進める。	
	データサイエンス演習	本講義では、推測統計や多変量解析の基礎を学ぶとともに問題の発見、調査の計画、データの収集と分析、結論の導出など一連のサイクルからデータに基づいて課題を解決する能力を身につけることを目標とする。	

## 授 業 科 目 の 概 要

(経営学部 経営学科)

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
健康・スポーツ科学科目	スポーツと栄養	<p>栄養学の基礎から学び、運動時に利用される栄養素について理解を深める。目的に合わせた食事計画について、スポーツ指導者として理解すべき科学的根拠から学習する。</p> <p>アスリートに多い栄養障害、ジュニア期の栄養教育などを踏まえた実践方法を習得する。</p>	
	ダンス・ムーブメントセラピー	<p>ダンスセラピストのリードのもと、グループでダンス・ムーブメントセラピーを体験しながら、自分自身に対する「気づき」を深めると同時に、ダンス・ムーブメントセラピーのグループ・プロセスを体験的に学ぶ。からだを通じた自己探索は一人一人に自己覚知をもたらし、特に健康・福祉・教育等の領域に進みたい学生にとって、将来役立つ手法の習得ともなる。</p>	
健康・スポーツ科目群 共通教育科目 スポーツ実技科目	スポーツ実技 (テニス)	<p>グランドストローク (フォアハンド・バックハンド)、ボレー (フォアハンド・バックハンド)、スマッシュ、サーブの技術の習得。各ショットに適したグリップの説明。シングルス及びダブルスのルールの理解、シングルス、ダブルスのゲームの行い方、テニスのマナーの理解、審判の仕方。</p>	
	スポーツ実技 (ゴルフ)	<p>『ゴルフスイング体操』によってゴルフスイングにおける正しい体の使い方と動かし方を学ぶ。</p> <p>ゴルフスイングを安全におこなうために必要となる、人体の仕組みについて学ぶ。</p> <p>ゴルフスイングの基本動作の習得の他、ゴルフコースをラウンドするにあたり、ゲームの進め方やスコアのつけ方、ラウンド用語、エチケットやマナーなど「これだけは知っておきたい」ゴルフの基礎知識を学ぶ。</p>	
	スポーツ実技 (バレーボール)	<p>本授業では、授業前半において主に基礎的なボールコントロール (オーバーハンドパス・アンダーハンドパス・ボール遊び) や、サーブ・スパイクなどの個人的技能の習得を目的とし展開する。授業後半では、ゲームを中心とした集団機能及びルール・審判方法などを学習し、実践的にバレーボールに親しめるよう授業を展開する。</p>	
	スポーツ実技 (バドミントン)	<p>バドミントンの歴史の追体験、ヒッティングの基本的な技術の習得、試合に関するルールの理解、試合をする・見る・支えるという多角的な学びを、仲間との協力や個々の課題発見・解決という面からのアプローチも含めて学習していく。</p>	
	スポーツ実技 (ジャズダンス)	<p>ジャズダンスの歴史の変遷による分類の中から、Commercial Dance・Charleston・Musical Danceの三種のダンススタイルを学ぶ。また、'12年度より義務教育でダンスが必修となり、「現代的なリズムのダンス」が導入された。新学習指導要領への対応のため、ここではオプションとして、Hip Hopにも取り組む。</p>	
	スポーツ実技 (エアロビクス)	<p>本授業では、ライフスタイルに取り入れられる活動や知識を紹介し、美容と健康に役立つレクチャーを並行して行う。さあ、あなたも軽快な音楽に合わせて楽しく汗を流しましょう！</p>	

## 授 業 科 目 の 概 要

(経営学部 経営学科)

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通教育科目 健康・スポーツ科目群 スポーツ実技科目	スポーツ実技 (スリムエアロ)	エアロビックダンスエクササイズプログラムは、健康の維持増進を図ることにより、QOL (クオリティオブライフ) の向上を目的として実施されるものであり、その内容は安全性、効果、継続する楽しさを兼ね備えていなければならない。この基本構成を身につけ、実践していく。	
	スポーツ実技 (ダンスエアロ)	エアロビックダンスエクササイズに必要な実技理論と実技指導を理解する。安全で効果的、楽しく継続出来るクラス作りの為の指導力を習得する。	
	スポーツ実技 (軽スポーツ)	1. 基本動作を身につける。(器具の特性を知る) 2. 種目を覚える。(分習を連続につなげていく) 3. バッジテストに挑戦する。(5級・4級) 4. 競技トランポリンを知る。(シンクロ演技)	
	スポーツ実技 (遊びと障害)	障がいとは何か、障がいのある人がスポーツや遊びを楽しむというものはどのようなものなのか、実際に体験し、考えていく。指導方法や介助方法、安全管理の留意事項を解説する。障がいのある人とない人とが同じ目線でスポーツや遊びを楽しむことについても考えていきたい。障がい者のスポーツに関するボランティア活動の情報も提供する。	
	スポーツ実技 (ヨガ)	ヨガは精神的なアプローチが多数あります。授業では実技を中心に様々な運動基盤となる身体感覚の気付きとコントロール力を養う運動療法的アプローチや統合医療等で用いられているヨガセラピー的アプローチで症状別対応について学びます。心身共にリフレッシュ出来、楽しく気持ち良く体験学習していきます。体を感じる力、感覚が高まります。	
	スポーツ実技 (ビーチバレー)	アウトドアの自然環境下でバレーボールを行ない、毎回試合形式のゲームを楽しむ中で、授業を通してバレーボールとビーチバレーの違いを学び、ゲームの質を向上させていく。	
	マッサージ実習	マッサージの方法は軽擦法を中心にリスクの最も少ない方法を指導する。 上肢・下肢・体幹に対する基本的なマッサージを指導し、たくさんの方が経験する肩こり、腰痛に対するマッサージの方法を指導する。	

## 授 業 科 目 の 概 要

(経営学部 経営学科)

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通教育科目	初年次ゼミ  学び発見ゼミ	<p>近年、思考力・判断力・表現力等の能力や主体性を持って多様な人々と協働し学ぶ態度が求められている。そのためには、学生に教えこむというよりも、学生自身が学び取るという態度を強く促すことが大切である。学びの原動力は、なぜかと疑問をもち、考え続け追及し続ける過程で「わかる」ことにあり、その楽しさは何ものにも代えがたいことが、学び続ける原動力である。これらを目的として、以下のテーマを設定した授業を展開する。</p> <p><b>文学部提供テーマ</b></p> <p>○柔らかな日本人の心、坂本龍馬 管 宗次 (1前) 坂本龍馬という歴史上の人物をとりあげて、大学での研究方法や文献調査の方法のイロハと、考え方や読み取り方も学びたい。教科書「坂本龍馬と和歌」は、入門書として書かれており、毎回、丁寧な説明もくわえていくので、ともに考え鑑賞する手引にもなっている。歴史や時代ものの好きな人や、古文書や博物館や美術館に興味のある人に学ぶ方法を授けたい。</p> <p>○短編小説を読む楽しみ 山根 明敏 (1前) 福本 由紀子 (1後) 翻訳を参照しながら、Ernest Hemingwayの比較的読みやすい短編小説を精読する。そのあとグループに分かれ問題点や疑問点を議論する。最後に議論の成果を発表する。また精読の後グループワークを実施する。</p> <p>○文学から読み解くアメリカ 松原 陽子 (1前) アメリカ文学作品を原作とする映画の分析を通して、アメリカの歴史・文化・社会についての理解を深めるとともに、異文化理解にとどまらないグローバルな問題意識を養う。取り上げる映画ごとに、リサーチ、プレゼンテーション、ディスカッション、ミニレポートの作成を行う。</p> <p>○政府統計から社会を知る 竹中 一平 (1後) 授業の前半では、データリテラシーの基礎を習得する。官公庁の白書や統計データの探し方、解釈の仕方、加工の仕方を学ぶとともに、それらを踏まえた課題に取り組むことで、データリテラシーに必要なスキルを身につけることを目指す。 授業の後半では、前半で習得したデータリテラシーを活用し、グループ活動を行う。他者との議論や協働作業を通して、データリテラシーを実践的に身につけることを目指す。 なお、授業内容は、受講人数や進度に応じて、受講生と相談しながら変更することがある。</p> <p><b>教育学部提供テーマ</b></p> <p>○グローバル化社会と対話力 本多 千明 (1前) 本講義では、社会生活に必要な知識について理解しグローバルな視点を育成するために、社会で起こる様々な諸問題について取り上げて考察する。初等教育でも取り上げられる基本的なテーマを中心に、ディスカッションを行う。具体的なテーマとしては、「わたしたちの政治」「わたしたちのくらしと日本国憲法」「日本の歴史」「日本とつながりの深い国々」など、社会で生活するうえで必要な事柄を取り挙げる。受講者が、社会について多岐に考えて考察することを通して、持続可能な社会づくりの主体となるために、様々な課題の解決に向けた探究活動を行う。グローバル化する社会で主体的に生きるために、対話する力を高めることを目的として、受講者による発表やディスカッションを行う。</p>	

## 授 業 科 目 の 概 要

(経営学部 経営学科)

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通教育科目  初年次ゼミ	学び発見ゼミ	<p>○教育をめぐる不思議な世界 松下 良平 (1後)                      本ゼミは大きく二つの目的をもつ。一つは教育の世界に触れてもらい、その世界に関心をもってもらうことである。教育の世界とは学校や塾に限らない。教育とは、誰かに教えてもらったり、自覚的に学ぶことだけに関係するわけではないからだ。人やものごととかわる中で人が知らず知らずのうちに成長していくこともまた、教育の世界の出来事である。                      もう一つは、あらゆる学びに共通する学びの基本を身につけることである。テキストを読み、そこで考えたことについて書き、それをめぐって自分とは異なる他者と議論し、それを通じて気になったことについてまた考えることである。                      教育をめぐる様々なテーマをめぐる言語テキストや映像テキストを媒介として、読み、書き、話し、議論するプロセスを実践していく。</p> <p><b>健康・スポーツ科学部提供テーマ</b></p> <p>○流行の発生とマーケティング 穂原 寿識 (1前・後)                      経営学における商学の専門演習                      マーケティングを通じて、商学の基礎と流行発生におけるメカニズムの実用を学ぶ。                      場合によって外部企業や団体との連携も行い、商品開発を学ぶ。グルーピングにより様々な課題をクリアにしていく。各自のアクティビティの高さが重要となる。</p> <p><b>生活環境学部提供テーマ</b></p> <p>○世界の食事と多文化共生 三宅 正弘 (1前・後)                      次世代の皆さんに、多様な人々が共生して暮らしていけるような社会の形成に向けて大きく期待している。日本という狭い枠組みではなく、まず隣人である中国、韓国をはじめ近隣の人々と一緒に考えて考え、さらにアフリカ、ヨーロッパなど広範囲な視野で、これからを担う、次世代の皆さんと共に未来を語りたい。まずは、世界の人々が考える様々な考え方を理解しようとする必要だろう。多文化共生が議論される今日、それに向けて、まずは食事を通して世界の様々な地域の人々が、どのような方法で食事をとり、食事を楽しんでいるのかを考えてみる。</p> <p>○社会のルールとその成り立ち 林 宏一 (1前)                      岡井 紀代香 (1後)                      人は様々な単位で構成される社会の中で生産活動に従事し、生活している。その社会には、どのような構成単位であれ、ルール(規則)が存在しており、構成員はそのルールを尊重しながら日々の活動を進めている。身近で当たり前のように教わってきたルールにも歴史が存在し、人類の英知が凝縮されている。この授業の前半では、様々な分野におけるルールの成り立ちを自ら調べ、思考するとともに、調査結果をプレゼンテーションし、他のメンバーとのディスカッションを行う。後半では、グループとなり、興味のある分野においてルール作りを行ってみる。</p>	

## 授 業 科 目 の 概 要

(経営学部 経営学科)

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通教育科目	初年次ゼミ  学び発見ゼミ	<p>○わたしの家を建てていく 田崎 祐生 (1前) 田中 明 (1後)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「家」についての原論を学び、自らの「家」の在り方を省みる</li> <li>・「家」の事例を学び、興味を持った事例についてその内容をさらに自ら掘り下げる</li> <li>・「家」を建てたい場所を自ら選定し、立地の歴史や安全性を調査する</li> <li>・「家」を自ら設計し、間取り図や模型を作成する</li> <li>・以上のすべてを段階ごとにそれぞれグループ内で発表し、議論する</li> <li>・グループの他のメンバーの発表内容、意見、考え方をよく聞き、自らの参考にする</li> <li>・ディスカッションを経て、他のメンバーに対してコメントシートを提出する</li> </ul> <p><b>音楽学部提供テーマ</b></p> <p>○音楽から学ぶ「多様性」と「私」 松浦 伸吾 (1前) このゼミでは“音楽”というキーワードから現れた様々な内容を幅広く取り扱う。前半においては、音楽の多様な姿を“知る”活動を通して自身の【“?”】(好奇心や興味)に出会い、グループディスカッション等で現れる他者の【“?”】に触れることで自身の【“?”】に向き合う。後半の1回においては個人の、またはグループで共有された【“?”】を授業外活動としての調査によって変化させた【“!”】(発見)を発表、全員で共有した後、そこから新たに現れた【“?”】について考えた後、設定テーマについての振り返りのための小レポートを課す。グループディスカッションやプレゼンテーションの方法についての学習も行う。</p> <p>○教養から創造的歩みへ 永島 茜 (1後) このゼミでは、①芸術領域の古典(音楽に関するものを中心とするが音楽以外の領域でも可)、②各受講者の専門領域の内容(例えば、専門領域に寄与した人物など)、③自由主題等を検討対象として、選択した主題について調べて「他者」に説明できる能力を養うため、受講人数や学科分布などを考慮しながら、対象を決めてスピーチ、グループディスカッション、レポートの作成などを行う。教員と受講者間に相互的な学びの環境を創るため積極的な授業参加を求める。</p> <p><b>薬学部提供テーマ</b></p> <p>○日本の医療のしくみを知る 山本 いづみ (1前) 高橋 悟 (1後) 日本の医療は一定のルールに基づいて成り立っており、我々は当たり前のように享受していますが、よくわからないことがたくさんありませんか。このゼミでは日本の医療における諸問題を取り上げ、プレゼンテーションを通じて、日本の医療のしくみを理解するとともに、収集した情報をもとに問題の原因の解明、解決方法や今後の対応策を議論・提案します。</p>	



授 業 科 目 の 概 要

(経営学部 経営学科)

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通教育科目	初年次ゼミ	<p>                             学び発見ゼミ                         </p> <p>                             ○生命科学の技術と倫理について 水野 英哉 (1後)                              生命科学技術の発展により、それまで治せなかった病気の診断や治療が可能になり、我々の生活は向上してきた。しかし、近年、これらの技術により、人間の尊厳に関わる新たな倫理上の問題が生じている。本授業では、これまでに話題になった生命科学技術のうち、遺伝子診断、クローン技術、胚性幹細胞を利用した再生医療、ゲノム編集技術を取り上げて概要を説明した後、これらの技術によって生じた生命倫理上の問題を提起をする。受講者は、各問題に対して自分の意見をまとめた後、グループディスカッションを行い、多様な意見をまとめてプレゼンテーションを行う。                         </p> <p> <b>看護学部提供テーマ</b> </p> <p>                             ○ハンセン病の歴史から学ぶ 和泉 京子 (1前)                              ハンセン病は感染力が非常に弱く、うつりにくい、らい菌による感染症である。しかし、かつては恐ろしい伝染病と考えられており、1931年に、すべての患者の隔離を目指した癩予防法が成立し、患者は療養所に隔離され偏見や差別の対象にされてきた。誤った隔離政策が廃止されて20年以上経過した今も偏見や差別が残っていると療養所の入所者や社会復帰者は感じている。偏見や差別のない、誰もが生きやすい社会のために、私たちはどうしたらいいか。ハンセン病に関心を持ち、理解することがその一歩になるよう行う。オプションで、香川県にある国立療養所大島青松園に出向き、入所者の体験談をお伺いすること、園内見学をすることなどを、企画している。                         </p> <p>                             ○105日間ダイエットと健康 寶田 穂 (1後)                              久米 弥寿子 (1後)                              このゼミでは、グループワーク活動を通して、The best of ダイエット法を作成する。正しいダイエット法を理解するために必要な、人体の解剖生理や年齢・成長による人体の機能や生活の変化、または栄養学等の基礎知識を学びながら、有効で実用的かつ具体的なダイエット法を企画するために必要な知識や準備すべきことは何かを考え、調べ、作り上げる。最終的には、地域の方に対しての成果物のプレゼンテーションを予定している。                         </p> <p> <b>経営学部提供テーマ</b> </p> <p>                             ○企業を調べて分析して説明する 4 佐々木 達也 (1前・後)                              学生自身が自ら課題を設定して調べ、集めた情報・データを分析し、その結果を他者に対して論理的に説明できるようになることを目的とした演習をおこなう。学生は、経営戦略・マーケティングや会計といった経営学の基礎的な概念枠組みを用いて、集めた情報やデータを表やグラフに整理して分析し、その結果を他者に対して論理的に説明することに取り組む。講義では「教員による解説と課題提示、ワーク（調査、分析、説明資料の作成）、プレゼンテーション、グループディスカッション、レポート作成、まとめ」のサイクルでおこない、実践を通しての理論の深い理解を目指す。                         </p>	

## 授 業 科 目 の 概 要

(経営学部 経営学科)

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通教育科目	初年次ゼミ  学び発見ゼミ	<p><b>共通教育部提供テーマ</b></p> <p>○はじめて学ぶクリティカル・シンキング 木村麻衣子 (1前・後) 与えられる、あるいは自身で選ぶ「テーマ」を適切に理解し、論理的かつ批判的に考え、その考えを述べるために必要なトレーニングを行う。また様々な異なる意見を公平に聞き、自身の考えとの相違点などを熟慮した後に、「考え」を戦わせる術を身につけるための練習を行う。</p> <p>○はじめて学ぶジェンダー問題 西尾 亜希子 (1前・後) 国や地域によっては、他の国から不思議に思われたり、強い批判の対象となっている慣習、「常識」とされる行動様式、制度などが存在する。それらを是正するための対策がとられ、改善が見られる場合もあるが、問題が未解決のまま残ったり、異なる問題に発展したりすることも少なくない。そのような実情について講義や自主学習を通じて学習し、グループワークや小レポート執筆によって理解を深める。</p> <p>○歴史から見通す現在・未来と私 古野 貢 (1前・後) ・提示されるテーマを歴史事象として捉え、担当内容についてまず個人で検討・評価を行ない、自らの立場、考え方を明確にするアプローチの方法を学ぶ。 ・自らの立場・考え方を裏付けるため、客観的に根拠のある証拠を収集し、論理的にまとめる [個人作業]。 ・自身の立場・考え方が、他者と同じなのか異なるのかについて議論する [他者との議論]。 ・他者との議論を踏まえ、さらに広く伝えるために、プレゼンテーションを行う [全体への発表]。 ・個人の作業 (自身の立場・考え方の明確化) →議論とまとめ (調整) →全体への発表という段階をとることで、個人作業⇄共同作業による議論の深化、視野の拡大を目指す。</p> <p>○人間の心理と行動を探る 寺井 朋子 (1前) このゼミでは、心理学の手法を用いて、人間の心理について考える。面接法・観察法のそれぞれにおいて班を作成し、各班の興味に応じて研究テーマを設定し、それを調べることとなる。 面接については、クラス内でお互いに面接し、データを収集する。観察については、授業中に学内の観察場所へ出向き、そこでデータを収集する。</p>	

授 業 科 目 の 概 要

(経営学部 経営学科)

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
基礎 教育 科目	英語	<p style="text-align: center;">Oral Communication □</p> <p>「英文法はある程度わかっている、いざとなると英語が話せない」という人は多く、本講義では、英語でコミュニケーションを図る際のフォーマットを確認する。実際に英語を「使う」ことを経験しながら、コミュニケーション能力を目指す。英語の基礎文法や語彙などを復習しながら、インタラクティブな講義を通して様々な状況での基本的な実用会話ができるようになることを目標とする。コミュニケーションにとって必要なターゲットをユニット毎に設定し、目標達成のための演習を行う。ペアワークを多用したトレーニング形式の会話演習が中心で、講義は全て英語で行う。</p>	
		<p style="text-align: center;">Business English I</p> <p>The common goal of Business English classes is to be exposed to and to acquire natural and precise business English. The students are to acquire practical skills by familiarizing themselves with common expressions of business English. This can be achieved by learning business English through listening comprehension (input) which in turn enhances their speaking (output) skills. The students will also find opportunities to be exposed to words and phrases that often appear in TOEIC tests. Business English I deals with fundamental tasks such as greeting, reporting, and problem-solving.</p> <p>Business Englishの共通目標は、自然で的確に伝わるビジネス英語に触れて習得すること。ビジネス英会話を聞き取り覚える(インプット)することで、自分でも発話(アウトプット)し、有用な文法や構文を取り入れながら、ビジネスの場面で使える英語表現に馴染み、学習していくことで、実用的に活かせるスキルを身につける。TOEICにも頻出する単語や表現も習得し、将来のグローバルな場面に備えます。Business English Iではビジネスシーンにおける簡単な挨拶から報告や伝達および問題解決等を扱う。</p>	
		<p style="text-align: center;">Business English II</p> <p>The common goal of Business English classes is to be exposed to and to acquire natural and precise business English. The students are to acquire practical skills by familiarizing themselves with common expressions of business English. This can be achieved by learning business English through listening comprehension (input) which in turn enhances their speaking (output) skills. The students will also find opportunities to be exposed to words and phrases that often appear in TOEIC tests. Business English II covers various business correspondence while introducing additional higher degree of politeness into their spoken and written English.</p> <p>Business Englishの共通目標は、自然で的確に伝わるビジネス英語に触れて習得すること。ビジネス英会話を聞き取り覚える(インプット)することで、自分でも発話(アウトプット)していけるよう、有用な文法や構文を取り入れながら、ビジネスの場面で使える英語表現に馴染み、学習していくことで、実用的に活かせるスキルを身につけます。TOEICにも頻出する単語や表現も習得し、将来のグローバルな場面に備えます。Business English IIではビジネスシーンにおけるさまざまなやり取りをその場にふさわしい適切な丁寧表現を取り入れながら学ぶ。</p>	

## 授 業 科 目 の 概 要

(経営学部 経営学科)

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
情報演習	情報リテラシーⅠ	この講義では、最初にデータと情報の違いとデータの測定尺度について学び、続いて、エクセルを用いた定量的データと定性的データの集計と視覚化の方法、平均や比率の差の検定、回帰分析などを学ぶ。次に、テーブルの結合やレコードの抽出などデータベースの基礎も学習し、後半では、Googleフォームを利用して簡単なアンケート調査を実際に行い、その回答データを分析し、その結果をワードで報告書にまとめ、パワーポイントで発表する。	
	情報リテラシーⅡ	情報リテラシーⅠで学んだ統計的手法に関して、重回帰分析でのダミー変数の利用やロジスティック回帰分析など、経営分野で有用な統計手法を学ぶ。データ処理では、アクセスを使って複数のテーブルを結合したり、複雑な条件を設定して該当するデータを抽出したりする方法などを習得する。プログラムで処理した方が効率的な場合が多いので、エクセルでも使用できるVisual Basicで大量のデータに対する単純な変換の繰り返し処理を通じてプログラミングの基本も理解する。また、情報を広く伝達するために、HTMLとPHPを使ったウェブページの作成も行う。	
基礎教育科目	経営学入門	経営学の対象である企業の仕組みと活動について理解することを通して、経営学が取り扱う各領域（企業論、経営組織論、経営戦略論、イノベーション論、マーケティング論、グローバル経営論など）にふれ、経営学の全体像を考える。この講義では、実際の経営実践の事例も豊富に参照することにより、より実践的に、かつ自主的に今日の経営において何が求められているのかを学ぶことが重視される。経営学の全体像を考えることを通じて、自身のキャリアや仕事生活などに考えを巡らせ、自分と企業との関わりについても考える。	
	経営組織論	組織に関する基礎的な概念および理論を解説する。組織の意思決定や個人のモチベーション、リーダーシップ、キャリア論などの「ミクロ組織論」と、分業と調整や組織設計、組織文化や組織変革といった「マクロ組織論」の両方をカバーする。企業や学生に身近な組織の事例を取り上げ、学生自身が学習した概念および理論で事例を解釈することによって理解を深める。実際の組織やその構成員である個人の行動について、組織論の概念および理論で説明できるようになることを目標とする。	
	ビジネスプラン構築論	グーグルやアマゾンの台頭によりビジネスモデルは変容している。ビジネスは使い易さや利便性に加えて顧客の生産性や環境対応あるいは顧客リスクの低減さらには商品の持つ楽しさなどといった顧客価値(Customer Value)を生み出すことが求められている。講義では最新のビジネス事例を通して顧客価値を分析し、そのビジネスがなぜ顧客の絶大な支持を受けているのかという要因を理解する。また顧客価値を分かりやすく見える化できるビジネスフレームも講義の中に取り入れることによりビジネスプラン構築のプロセスの理解を深める。	
専門基礎			

## 授 業 科 目 の 概 要

(経営学部 経営学科)

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
基礎 教育 科目	専 門 基 礎	経営戦略論入門	経営戦略とは、企業が外部環境の変化に対応して、あるいは、積極的に自らの活動や組織構造を変化させたり外部環境に働きかけることによって、企業の経営目的を達成したりビジョンを実現させるための構想であり、組織的な意思決定の指針である。本講義では、経営戦略に関する基礎的な概念および理論を解説する。また、実在する企業の事例を取り上げ、学生自身が学習した概念および理論で事例を解釈することによって理解を深める。企業の行動の背景にある経営戦略がどのようなものなのかを説明できるようになることを目標とする。	
		経営環境論	企業を取り巻く経営環境の変化として、10のテーマ（地球環境、天然資源、人口動態変化、人口移動、富の再配分、ビジネスのグローバル化、新興国へのパワーシフト、さらに賢くなる個人、ダイバーシティ、デジタル化と生産性）を取り上げ、今後30～40年にわたって起こる世界的な変化の流れ（メガトレンド）を理解し、こうした変化がもたらす社会課題の深刻さを学ぶ。同時に、こうした社会課題を解決することが大きなビジネスチャンスになることを理解し、今後ビジネスを行う上で重要となるテーマに関する考えを深める。	
		労使コミュニケーション論	今後の日本社会では、働く人々の立場と経営者・管理職の立場を踏まえた良好な労使コミュニケーションの構築が不可欠となる。日本企業では圧倒的多数を占める企業別の労働組合が重要な役割を果たし、労使対立ではなく労使対等の労使関係が模索されてきた。企業をはじめとする勤務先組織の従業員であるとともに、労働者組織の一員となる点を想定しながら、労使コミュニケーションの過去、現状、将来を考え、今後の日本社会において一人一人が活躍し、豊かに生きるために必要な内容を学ぶ。	
		協働プロジェクト論	協働プロジェクトの手法であるREENAL (RESONA+REGIONAL) を用いて、ケーススタディとして、そのプロセス・背景を読み解くことで、協働とは何か、なぜ多様な主体による協働が必要なのか、どのように協働を喚起し、プロジェクト化していくのか、を学ぶ。さらには、多数のケーススタディをベースに体系化され、常に現場での試行錯誤によって更新されている協働プロジェクト論に基づき、自身が最も関心のある分野・領域でテーマを設定し、協働プロジェクト案を創り上げることを通じて、理論だけでなく実践で活用できるレベルでの習得を目指す。	
		組織行動論	企業をはじめとする組織を、組織図が示すような外形ではなく一定の共通目的をもった複数の個人から構成される集団ととらえ、組織の中でのメンバーがどのように行動するのかを考察する。労働者にとっては自らの職業人生の様々な局面で体験する内容と重なり、経営者にとっては組織の設計上、重要な意思決定を行う内容となる。具体的にはモチベーション、コミットメント、キャリア、リーダーシップなど経営学の発展とともに進化し、職場で常に話題となる内容を学ぶ。	

## 授 業 科 目 の 概 要

(経営学部 経営学科)

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
基礎 教育 科目	専 門 基 礎	会 計 入 門	経営学部で学ぶ学生にとって最低限必要とされる会計学の基礎的内容を紹介することを目的とする。会計学を学ぶ上で効果的なのは、初歩的な簿記の知識を身につけることにあるため、これから学ぶ商業簿記の基礎を紹介し準備をしてもらう。会計学の知識は経営学や経済学を理解する上でも新聞の経済記事を理解する上でも非常に有意義なものであるため、講義では積極的に新聞記事などを利用する。
	商 業 簿 記 I	簿記は、企業の財産状態および経営成績を明らかにするための記録と計算の技術である。会計情報は、経済社会の維持発展に欠くことのできないものであり、それをささえる技術的基礎が簿記である。したがって簿記の理解がなくては企業が提供する膨大な情報の適切な活用が困難になる。講義では、会計学の体系の理解と、複式簿記の基本原則から、損益計算書および貸借対照表の作成にいたるまでを範囲とする。内容は、簿記検定3級程度以上をカバーすることを目標とし、そのため練習問題を実際に解いて会計処理の理解ができるようになることを目的とする。	
	商 業 簿 記 II	商業簿記IIは、商業簿記Iに続き、簿記の3級の範囲を学習する。商業簿記Iで扱った項目に加え財務諸表の作成の基本をマスターできるように講義をすすめる。3級の範囲が終わりしだい、2級の範囲に講義をすすめる。株式会社社会計は、3級の範囲に入ったものであるが、その内容に関しても2級に関連する問題まで触れていきたい。有価証券は、2級の範囲になったものであるが、これについても講義で取り上げていくので予習と復習を十分にしてもらいたい。特に商業簿記IIは、商業簿記I以上に処理が複雑化していくのでしっかりと身につけられるように練習問題をすることが重要になる。	
	原 価 計 算 I	製品を販売する際、その製品の原価がいくらかが分からなければ適正な販売価格を決定することができなくなる。正確な原価の計算は価格決定を容易にするだけでなく、他の多くの経営管理活動に役立っている。本講義では、受講生が簿記の基礎を理解していることを前提に、工業簿記・原価計算を基礎から学習する。原価とは何か、原価はどのように計算するのか、計算した原価情報で何ができるか、こうした素朴な疑問に答えを出していくことで原価計算への理解を深めていく。原価計算Iでは、原価の3要素となっている、材料費、労務費、経費の計算プロセスについて詳説し、個別原価計算と呼ばれる原価計算方法について学習する。毎回、講義の後半に問題演習の時間を設け、実際に原価を計算してもらうことによって問題解決能力の向上を図る。	

## 授 業 科 目 の 概 要

(経営学部 経営学科)

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
基礎 教育 科目	専 門 基 礎	原価計算Ⅱ	製品を販売する際、その製品の原価がいくらかが分からなければ適正な販売価格を決定することができなくなる。正確な原価の計算は価格決定を容易にするだけでなく、他の多くの経営管理活動に役立っている。本講義では、受講生が簿記の基礎を理解していることを前提に、工業簿記・原価計算を基礎から学習する。原価とは何か、原価はどのように計算するのか、計算した原価情報で何ができるか、こうした素朴な疑問に答えを出していくことで原価計算への理解を深めていく。原価計算Ⅱでは、同じ規格の製品を連続して大量に生産する企業が採用する原価計算方法である総合原価計算と、経営管理の手法として広く用いられる標準原価計算や直接原価計算について学習する。毎回、講義の後半に問題演習の時間を設け、実際に原価を計算してもらうことによって問題解決能力の向上を図る。
		企業財務論	グローバル企業における投資意思決定手法の基本である正味現在価値 (NPV) 法や内部収益率 (IRR) 法、およびNPV法で使われる割引率 (資本コスト) の推定方法、不確実性のある場合の意思決定方法、さらに資本調達及び買収・合併 (M&A) の課題などについて理解する。ここで紹介する意思決定手法は、日本企業が苦手としてきた定量的手法であるが、グローバル化する資本市場の要請、およびグローバルな買収・合併のために、日本企業でも必要となってきた。こうした分析手法に関する基礎的な理解のために、講義型の講義に加えて、簡素化された事例をもとにした練習問題をもとにして、定量的な分析手法についても学ぶ。
		マーケティング入門	製品やサービスの開発から、価格決定、市場や競合関係の把握、広告宣伝に至るまで、マーケティングの名のもとでさまざまな企業活動が行われている。本講義では、前半に、マーケティングの基礎理論を説明し、その理論が誕生した社会背景と具体事例を取り上げながら、講義を行う。後半では、マーケティングの構造とマネジメントを中心に、日本でマーケティング活動を行う企業事例を取り上げながら、講義を行う。マーケティングの過去、現在、未来を体系的に学習することによって、世の中で起こったビジネス現象を理解できる力、考える力を身につける。
		マーケティングリサーチ	マーケティングリサーチとは目的に応じた様々な情報データを収集・分析してマーケティング活動に役立てるものである。本講義では実際の商品サービス事例を題材として様々なリサーチ方法 (アンケート調査・インタビュー調査・観察法・競合調査・顧客満足度調査・受容性調査等) や分析方法を学ぶことで、マーケティングの基本と方法論を習得する。また課題を通じて調査設計および調査企画に取り組むことで、実務に活用できるスキルを習得する。さらにクラウド・ソーシングやリード・ユーザー法などの最新手法についても学ぶ。
		デジタルマーケティング	デジタル社会において、消費者や顧客はスマートフォン等のデジタルデバイスを活用して日常生活を送り、企業はデジタル技術を駆使してマーケティングを実践している。本講義では、デジタル社会におけるデジタル・マーケティングについて、基本概念や伝統的マーケティングとの関係性を理解しつつ、デジタル・マーケティング戦略やマネジメントについて学習する。また実際の企業実践の事例を通じて、デジタル・マーケティングの諸概念や実践方法の理解を深める。

## 授 業 科 目 の 概 要

(経営学部 経営学科)

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
基礎 教育科目	専門 基礎	消費者思考の製品開発	企業が提供するさまざまな製品やサービスは、消費者思考で開発されない限り市場での成功は難しい。そこで、企業が日々、どのように消費者と接点を持ち、どのようにニーズや意向のデータを取得しているのかについて、市場に製品やサービスを導入する前の開発段階と、市場に導入した後のマーケティング活動段階の両方のフェーズにおいて学ぶ。この講義では、事例を多数扱いながら、消費者思考の製品開発の意義と重要性、また、それに関する基本的調査手法を理解し、消費者思考の製品開発の基礎的な知識の習得を目指す。	
		統計入門	企業活動やビジネスの現場においては、様々なデータを活用し、物事を合理的に意思決定していく必要がある。ビッグデータ時代の到来により、企業経営では多種多量のデータを扱うことから、そのデータを適切に分析する統計学の知識を身に付けることは必須である。本講義では統計学の基本となる記述統計学について理解し、データの種類と度数分布、グラフ表現などについて学ぶ。また、代表値と散布度からデータを要約し、データの特徴や傾向を把握する方法について学ぶ。さらに、エクセルを利用した統計解析のスキルも習得する。	
		統計解析	企業経営においては、データ分析をもとに価値のある情報を見出すことや将来を予測することが必要になっている。本講義では高度な統計解析手法として推測統計学および多変量解析の基礎を学習する。また、企業と連携したデータを用いて、統計解析ソフトを利用した解析演習を行い、社会で実際に使われるデータを利用して、どのような課題があり、どのような改善策が必要なのかをデータから考える。	
		ネットビジネス入門	インターネットが日常の生活で不可欠となっている。本講義はインターネットを利用するビジネス全般の基礎を理解できるよう、その必要な知識について最新の事例を通じて学ぶ。まず、ネットビジネス登場の背景として、ネットワーク技術の進展に伴い、企業情報システムがどのように変化してきたのかを学ぶ。次に、ネットビジネスのプレイヤーをレイヤー別にそのビジネスモデルについて事例を通じて学習する。その上で、ネットビジネスの代表格である電子商取引について、取引形態別に理解を深める。そして最後に、今後のネットビジネスに影響を与えるであろう技術と法・倫理的規制について学び、今後の洞察へとつなげる。	
		クラウド入門	クラウドの基盤となっているインターネットがどのように誕生したのかを学ぶところから始め、学術系ネットワークであったインターネットがいかにして企業活動や人々の日常生活の基盤となってきたのかを学習する。次に、インターネットによって可能になったネットビジネスとインターネットが生み出した2大巨人についてその成長過程を含めて学ぶ。最後に、インターネット上に構築され、新たな社会基盤となっているクラウドとは何か、それがいかに社会を変えてきているのか、事例を踏まえて理解する。	



## 授 業 科 目 の 概 要

(経営学部 経営学科)

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
基礎 教育 科目	専門 基礎	企業情報システム I	<p>情報技術は企業経営にとって不可欠なものとなり、企業活動のインフラストラクチャーとして重要な役割を担っている。本講義は、情報システムに関する基本概念を体系的に学ぶとともに、情報システムと企業経営の関係を理解できるよう、その必要な知識について事例を踏まえて学ぶ。前半は、主に人・情報・情報技術から構成される情報社会や情報技術の基本と進展・役割について広く学ぶ。後半は、主に企業情報システムの基本と諸類型などを把握し、企業の情報システム利活用の実態について広く学ぶ。</p>	
		経済学入門	<p>経済と経済学の違いを整理し、経済学の基礎的体系を理解するとともに、経済に関する情報を理論的・論理的にとらえる力を養う。講義では、経済学の考え方=理論・モデルについての基礎知識を整理し、経済学と現実経済との対応を関連づけながら、経済理論を丁寧に説明することで、それらが現実経済の土台になっていることを知ることの重要性を学ぶ。また、我々の生活にとって経済は身近な存在であるが、必ずしも経済=経済学ではないことを理解する。</p>	
		ヴィジュアルマーチャンダイジング	<p>ヴィジュアルマーチャンダイジングは、小売業を繁盛させるための手法である。そのために、マーケティング戦略に加え、店舗という消費地点における接点戦術が必須である。売上を上げるための商材展開技術を、いくつかの数値を指標として学ぶ。店舗デザイン時の「定数・定量」、商品戦略としての「一点単価」「客単価」、マーケティング戦略と連携する「入店数・入店比率」、そしてヴィジュアルマーチャンダイジング指標としての「SKU(在庫管理を行うときの最小管理単位)」、「ヒット率」、「セット率」などについて学ぶ。</p>	
		パブリックマネジメント入門	<p>地域社会を維持するとはどういうことなのか、地域社会は誰が担っていて、具体的にどのような課題があり、どのようにして解決していくのか。実際に全国の地域で行われている地域経営の事例をもとに、地域社会が置かれている状況や地域経営の実態、課題と解決までのプロセスやその成果について学ぶ。事例を通じて、公共を担うということはどういうことなのか、担い手やその手法、評価の考え方など、地域を始めとした社会づくりに携わる者に必要な基本的な考え方や知識を身につける。</p>	
		法律入門 I	<p>はじめて法律について学ぶ学生向けの入門である、法律学の中で最も基本となる憲法の人権分野を扱い、社会における諸問題について、具体的事例を参考に法的知見を深めていく。毎回憲法の主要なテーマを扱い、関連する学説や判例の理解を紹介し、人権・自由の重要性について学んでいく。また、近年耳目を集める事件や事例があれば、積極的に取り上げる。</p>	
		法律入門 II	<p>はじめて法律について学ぶ学生向けの入門である。本講義では法律の中で最も基本となる憲法の人権分野の一部と統治分野を扱い、社会における諸問題について、具体的事例を参考に法的知見を深めていく。毎回憲法の重要なテーマを扱い、関連する学説や判例の理解を紹介し、人権・自由の重要性について学んでいく。また、近年耳目を集める事件や事例があれば、積極的に取り上げる。</p>	

## 授 業 科 目 の 概 要

(経営学部 経営学科)

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
基礎教育科目	専門基礎	民法入門Ⅰ	民法は、我々の日常生活に生じるさまざまな法的問題を規律する極めて身近な法律である。しかし、条文数が膨大であり、テキストを1ページ目から通読するような勉強法ではなかなか理解が深まりにくい。本講義においては、総則、物権、債権、家族法の全体像を最初に示す。その上で、当講義の対象範囲である民法総則、物権について、基本的かつ実務上重要な論点についての理解める。	
		民法入門Ⅱ	民法は、我々の日常生活に生じるさまざまな法的問題を規律する極めて身近な法律である。しかし、条文数が膨大であり、テキストを1ページ目から通読するような勉強法ではなかなか理解が深まりにくい。本講義においても、民法Ⅰ同様に、総則、物権、債権、家族法の全体像を最初に示す。その上で、当講義の対象範囲である債権について、基本的かつ実務上重要な論点についての理解を深める。	
		地域振興論	人口減少・少子高齢化により、都市や農山村などあらゆる地域の抱える課題も変化している。地方創生の目的としている人口の東京圏への一極集中の是正と地方といわれる地域の人口減少を食い止めるには地域はどうあるべきなのか。地域振興の基本的課題である産業振興、主体としての住民の力、地域資源のブランド化、暮らしの向上の4点について、地域振興重要性和有効な方策について理解する。	
		中小企業イノベーション論	イノベーションについては、大企業の技術革新が議論の中心になりがちであるが、本来のイノベーションは技術革新にとどまらず、新しい販路の開拓や新しい組織形態の導入など、幅広い革新を意味する。また、イノベーションの主体は革新的アイデアを有したベンチャーのみならず、日本においては中小企業による経営革新（第二創業）が重視されている。それは既存の資源や事業を活用しながら新たな方向へシフトすることで自社の永続的繁栄を目指す中小企業の戦略であり、日本の中小企業観によるものである。本講義ではイノベーションの基本的概念や理論、その担い手である中小企業によるイノベーションのあり方について学ぶ。	
		企業の社会連携論	企業の活動と社会の課題をいかに結びつけるか、ということを経営的に経営に生かそうという試みについて学ぶ。講義では、企業の3つの事例-1) 地域貢献事例：余裕があるから社会のためになることをする。2) ソーシャルビジネス：儲からないが、使命として社会的な問題解決を引き受ける。3) CSV：社会問題解決を儲かる仕組みに結びつける。-について、それぞれの解説をしながら進める。特に3つめのCSVの実現では、自社ですべてを行うのではなく、社会セクターとの協業として実現する手法が有効であるため、それをグループワークを通じて考える。	

## 授 業 科 目 の 概 要

(経営学部 経営学科)

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
基礎 教育 科目	専門 基礎	<p>公共政策に関わる諸問題に対処するための導入として、報道資料や広報資料に書かれてある内容を正確に評価、理解することを目指す。そのために、政策分析の基礎として重要な法律と経済学のアプローチに関し、毎回の講義にて問題の提示とその解説という形式で基礎知識の定着を図る。法律に関しては、「憲法」の基礎知識を事例にあてはめ運用する力を養い、経済に関しては、「ミクロ経済学」の考え方と現実経済に関して評価する力を養うこととする。</p> <p>(オムニバス方式／15回) (14 杉井俊介／7回) 憲法の基礎知識を事例にあてはめ運用する力を養う。</p> <p>(② 藤井善仁／8回) ミクロ経済学の考え方と現実経済に関して評価する力を養う。</p>	オムニバス方式
		<p>公共政策に関わる諸問題に対処するための導入として、報道資料や広報資料に書かれてある内容を正確に評価、理解することを目指す。そのために、政策分析の基礎として重要な法律と経済学のアプローチに関し、毎回の講義にて問題の提示とその解説という形式で基礎知識の定着を図る。法律に関しては、「民法」の基礎知識を事例にあてはめ運用する力を養い、経済に関しては、「マクロ経済学」の考え方と現実経済に関して評価する力を養うこととする。</p> <p>(オムニバス方式／15回) (14 杉井俊介／8回) 民法の基礎知識を事例にあてはめ運用する力を養う。</p> <p>(② 藤井善仁／7回) マクロ経済学の考え方と現実経済に関して評価する力を養う。</p>	オムニバス方式
		<p>CSR (Corporate Social Responsibility : 企業の社会的責任) に関する基本的理論と近年の流れを理解し、現代社会において求められる企業の役割と企業人の倫理観に関する理解を深めることを目指す。経営学・経済学の視点から欧米諸国と日本のCSR (企業の社会的責任) に関する歴史を振り返りつつ、基本的な理論を学ぶ。また、多くの事例を取り上げながら、CSRとマーケティングとの関係を解説する。具体的な事例を数多く取り上げることで、よりわかりやすく企業と社会の関係を理解できるようにし、CSRは企業価値の向上に寄与する活動であるという「戦略的CSR」について学ぶ。</p>	
		<p>ビジネスにおいて必要とされる2つの代表的な思考法についてそのエッセンスを学ぶ。ロジカル・シンキングでは、ビジネス上の課題を論理的に整理する方法と、課題の解決法にいたる思考法を身につける。さらに、ビジネス文書の作成において要点を簡潔に文章にまとめる方法と、グラフや表を用いた表現方法なども学ぶ。デザイン・シンキングでは、先駆者であるIDEO社の取り組みを切り口に基本的なフレームワークを学んだ後、自分自身でデザイン・シンキングの実践ができるようにその手順と手法をモデル企業を題材として学び、自ら設定した題材で実践する。</p>	

## 授 業 科 目 の 概 要

(経営学部 経営学科)

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
基礎 教育 科目	専門 基礎	論理と数理入門	論理については、判断推理能力の基礎を高める練習を行い、数理については、数的推理能力の基礎を高める練習を行う。こうした論理と数理の基礎訓練を通じて、大学生として必要なリテラシー能力を鍛える。リテラシーとは、狭義には読み書きの力を意味するが、ここでは、なぜ、そのように考えることができるのかという、論理式や数式の意味的理解を重視する。
		消費者行動論	役割の分業化が進展する現代社会において、消費者としての役割と行動は、誰にでも当てはまる日常的で身近な社会的行動の一つである。この講義では、消費者の行動を社会的文脈の中でとらえて考察し、理解することを目指す。消費者理解の出発点となる感覚や知覚の解説から始め、消費者の判断や意思決定、購買やブランドに関する知識構造と購買プロセスの検討、さらには、マーケティングや広告、オンライン消費や商品の廃棄に関連する問題まで、比較的広範囲にわたるトピックについて、社会心理学の観点から考察することで、日常的な消費行動についての理解を深める。
		デザイン思考	少子高齢化、人口減少、AI、ロボットなどの技術進展、グローバル化など従来、経験したことがない環境に経営は直面しつつある。従来の延長線とは異なる新たな市場を生み出すことを我々は求められている。このような能力は一般的に「創造力」と呼ばれ、特定の人々だけが持つ能力とされてきた。しかし、市場創造能力の要請から生まれたデザイン思考は、誰もが持つ能力を活用し、不透明な状況においても可能性を見出し、未来につながる市場を創造する思考法である。この講義では、デザイン思考の全体像と企業経営とのかかわりについて説明し、デザイン思考の特性と基本ツールについて習得する。
		ロジカルシンキング	ビジネスで活躍するために、またより広く社会の問題解決を行うために必要となる、実践的な思考法の習得を目的とする。具体的には、以下の要素を学習する。論理的な思考の原理：論理的であるとはどういうことか、問題解決の考え方・プロセス：実際に問題解決に臨む際に、どのようなポイントをおさえる必要があるか、どのような流れで問題解決を実現していくべきか、演習を通じた、具体的な手順とコツ：流れの中で具体的にどのような作業を行うべきか。講義では、上記に合わせて、必要に応じ経営に関する代表的なフレームワーク（問題解決の思考にそのまま使える枠組み）を紹介する。
		社会心理学	心理学は目に見える行動から目に見えない心の動きを科学的に推測する学問である。中でも社会心理学は、他者との関係にその科学的推測の根拠を置く。そのため、個人の行動をとりだして見るのではなく、その人が置かれた立場や状況、その人を育てた集団や組織・社会の中で個人の行動を見る必要がある。この講義はこうした社会心理学的視点からの人間理解を目指す。具体的には、個人と集団、あるいは個人と社会との相互作用に関する事例を題材に、私たちの心の働きについて、他者からの影響や所属する集団・組織からの影響を中心に解説し、私たちの日常的な行動について理解を深める。

## 授 業 科 目 の 概 要

(経営学部 経営学科)

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
基礎教育科目	専門基礎	<p>卒業後に社会で活躍する具体的なビジョンおよびその為の具体的なアクションを早期に設定できるように、本学教員がOG等を含めて実際に社会で活躍している女性をゲストに呼び、仕事内容・キャリアの築き方・課題の克服方法・大学生活の過ごし方などの実体験を紹介する。受講を通じて、多様な女性のキャリアを知るだけでなく、多様な仕事内容・業界についての知識も深め、早期のキャリア設計を考える。</p> <p>(オムニバス方式／15回) (6 高橋千枝子／4回) 女性の就職環境、金融業界およびプロフェッショナル業界での女性キャリアについて講義する。</p> <p>(10 神栄美穂／4回) 日系メーカー、外資系企業での女性キャリアについて講義する。</p> <p>(11 西口智美／4回) 海外で働く女性キャリア、広告代理店業界での女性キャリアについて講義する。</p> <p>(16 山下紗矢佳／3回) 地方自治体や公務員、NPO・コミュニティでの女性キャリアについて講義する。</p>	オムニバス方式
	基礎演習	<p>キャリアデザインとは現在の自分を認識し、さらにその延長線上に未来の自分を描いていくことである。この講義では、卒業後のキャリアを考えるきっかけとなるように、グローバル企業や大企業の経営戦略やマーケティング、地域の企業の状況と問題点、地域社会で生きることとは、といった視点から経営学部の3つのスタディーズに即したテーマを選び紹介していく。その際には学外から、地域で活躍する方、企業経営している方などをゲストに適宜招き、それぞれの講師の経験や知見を紹介してもらう。ここから受講者が女性としてのキャリアのあり方について考え、その中で自分自身を確立し、社会へ踏み出す力を養う。</p>	
	基礎演習	<p>初期演習 I</p> <p>クラス単位で実施する全学共通科目である。学生が入学後に本学部学科の3つのポリシーおよび教育概要を理解した上で、自らのキャリアパスを組み立て、学習計画を立案し、有意義な学生生活をスタートできるように基礎力を養成する。テストやツールを活用して自己分析をもとにグループディスカッションを通じて自らのやキャリアパスや学習計画を考える。また学内設備・施設の活用方法や学内外ルールの学習などを通じて、円滑な大学生活を送るための知識・スキルを習得する。さらにグループ活動を通じて、将来社会人として求められるコミュニケーション力を養成する。</p>	

## 授 業 科 目 の 概 要

(経営学部 経営学科)

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
基礎 演習	初期演習Ⅱ	<p>初期演習Ⅰの続きとして、クラス単位で実施する全学共通科目である。文献検索や文章作成、プレゼンテーション等のスキルを学び、大学での本格的な学びに向けた学習基礎力を養成する。また幅広い知識や教養の習得、キャリアアップや資格取得、語学学習など、専門領域に留まらない学習内容および学習方法についても理解し、目指すキャリアに向けた学習計画を考える。さらにグループワーク活動を通じて、プロジェクトの企画運営方法やリーダーシップ、コミュニケーション力を養成する。最後に専門教育のオリエンテーションを実施し、専門教育への円滑な導入を図る。</p>	
	経営課題演習Ⅰ	<p>経営課題演習Ⅱと対になるもので、比較的基礎的なレベルでの導入編に当たる。講義では、提示された経営課題に対して、実証的なデータを収集し、その経営課題を解決するための事業を立案する一連のプロセスについて学ぶ。事業の立案は4名～8名からなるワーキンググループを組織して行うが、単にグループで事業アイデアを出すのではなく、資料収集やフィールド調査を通じて得られたデータにもとづいて立案することが求められる。また立案に際しては、その課題解決をビジネスチャンスにつなげることと、実現可能なレベルでの具体性を持つことが重視される。</p>	
	経営課題演習Ⅱ	<p>経営課題演習Ⅰと対になるもので、経営課題演習Ⅰの実践編に当たる。そのため、講義の進行については経営課題演習Ⅰと同様であるが、より高いレベルで、経営課題に対する実証的なデータの収集とその課題を解決するための事業の立案が求められる。事業の立案は4名～8名からなるワーキンググループを組織して行い、資料収集やフィールド調査を通じて得られたデータにもとづいて立案することが求められる。資料やデータについては、既存の資料だけでなく、一次資料の収集も視野に入れている。また立案に際しては、その課題解決をビジネスチャンスにつなげることと、実現可能なレベルでの具体性を持つことが重視される。</p>	
基礎 教育 科目	実践へのいざない	<p>本学部では実践活動を通じた学びを教育の中核に位置づけている。それを実現するのが、1年生後期から配当されるインターンシップ、サービスマーケティング、フィールドワークという科目である。この講義では、これらの科目を履修するに先立ち、経営学部の3つのスタディーズにおける実践の意味と重要性、これら3つの科目それぞれの相違点や具体的な学習の進め方を理解する。さらに、実践において必要となる基礎的な技能の習得を進めるとともに、小グループで模擬的に実践活動の計画を立て、関係各所への連絡、中間・事後の報告などについて演習を行い本格的な実践活動に備える。</p>	共同
	インターンシップ	<p>インターンシップは、就労体験を通じて、大学での教育や研究を社会での実地の体験と結びつけることである。学生が自己の職業適性や将来設計について考え、主体的な職業選択や高い職業意識の育成を図る機会となる。本科目は、国内外の民間企業、官公庁、自治体、非営利組織、コミュニティ等でのインターンシップ（就労体験）を通じ、実社会の課題を学ぶと同時に、自分の適性や能力を理解することと、学外での体験を大学での学びにも活かすことを狙いとしている。</p>	

## 授 業 科 目 の 概 要

(経営学部 経営学科)

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
基礎 教育科目	実践科目	<p>サービスラーニングは、アメリカで始まった教育の一つで、社会活動を通して市民性を育成する学習である。ボランティアサービスを提供する学生側とそれを受ける側とが対等の互酬関係に立ち、学生がボランティア活動の経験を大学での教育や研究と連結させ、学習効果を高めるとともに、責任ある社会人になるための主体的行動である。本科目では、学生は社会人として、市民として、地域と結びつき、さまざまな職場や地域住民と協働することで、新しい視点を得ると同時に、多くの課題にも直面し、それに対処しながら経験を培い、大学に戻ってその経験を振り返りながら、学習としての成果にまとめる。</p>	
	<p>フィールドワークは、社会科学の主要な研究方法として発展してきたもので、調査対象とする現場に身を置き、目で見、耳で聞き、手で触れ、肌で感じ、舌で味わった生の体験にもとづく調査手法の総称である。フィールドワークでは、対象となる人や集団が先にサンプリングされる。本科目では、人や集団が持つ規範や文化、風俗について「まず先入観なく体験する」というプロセスを重視する。また、フィールドワークによる人や集団の理解にはさまざまな方法があるが、唯一絶対の方法はなく、体験後に見出した研究課題に適した方法がとられる。そのため、複数の方法の長所を組み合わせることが重要である。</p>		
専門 教育科目	ビジネス・デザイン・スタディーズ	<p>経営管理論</p> <p>組織の管理運営に関する諸活動を調整して総括し、組織の目標を効率的に達成するマネジメントの理解を目指す。経営理論を含めた経営管理論の全体像を把握して大局的に理解した後に、主要な機能を個別に掘り下げる。具体的には、組織デザインや組織文化など組織の内部のマネジメント、環境適応や経営戦略など組織の外部にある環境のマネジメント、人事管理や生産管理など日本の特徴を意識して、企業のマネジメントを学ぶ。また、経営管理の理解を深めるために、理論面だけでなく実例を多用して考察する。</p>	
	<p>流通小売論</p> <p>私達の生活に身近な小売業について、小売業の生成・発展・衰退経緯を理解した上で、流通の基本概念・理論を取り上げながら、百貨店や食品スーパー、ドラッグストアやホームセンターなど様々な小売業の特徴と具体例について体系的に学ぶ。また近年成長が著しいインターネット販売についてもビジネスモデルや成長要因について学ぶ。さらにインターネット販売を含む小売業を支える中間流通業者やロジスティクスについても学ぶことで、流通小売業界の全体像を理解する。</p>		
	<p>財務会計論 I</p> <p>費用・収益を中心とした損益計算論が理解できるようになることを目的とする。財務会計の対象と方法、また会計公準、会計原則などの主要概念の内容を講義の最初の方で明らかにする。財務会計は、外部報告を目的とするものであるから、現行の企業会計をささえている企業会計原則、証券取引法、商法などの会計制度の仕組みについて、会計学を支える制度を理解できるようにする。</p>		

## 授 業 科 目 の 概 要

(経営学部 経営学科)

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目 分野別専門 ビジネス・デザイン・スタディーズ	管理会計論 I	会計学分野は、外部の利害関係者に企業の経営成績や財政状態を報告するための会計である財務会計と、企業内部の経営者や管理者に経営管理に役立つ情報を提供するための会計である管理会計とに分かれている。本講義の目的は、管理会計の基本的な考え方と技法についてケースなどを使って分かりやすく解説することである。すなわち、企業が直面するさまざまな状況において、もっとも有効なマネジメント手法とは何かを考え、それを活用することによってマネジメント問題の解決を図ることがこの科目の狙いとなっている。管理会計論 I では、予算管理や業績評価といった管理会計の基本的なトピックスを幅広く取り上げ、それらがどのように経営管理に役立つのかを学習する。なお、毎回の講義の冒頭では事例分析の課題を与え、後半では確認テストを実施し、学習内容の理解を深める。	
	経営戦略論 I	経営戦略は、企業が実現したい目標と、それを実現させるための道筋を、外部環境と内部資源とに関連づけて描いた、将来にわたる見取り図と定義される。現代の多角化した大企業においては、事業ごとに策定される事業戦略、企業全体に関わる全社戦略、個別の機能ごとの機能戦略の3つの階層で考える必要がある。講義では、事業戦略および全社戦略に関する概念および理論を解説し、経営戦略の策定プロセス、実行プロセスについても取り上げる。実在する企業の事例を取り上げ、学生自身が学習した概念および理論で事例を解釈することによって理解を深める。	
	マーケティング戦略論	マーケティングとは顧客および市場の創造である。講義では既に習得したマーケティングの基本をベースとして、顧客創造に焦点をあてたマーケティングデザインおよび戦略と仕組みづくりに焦点をあてたマーケティングマネジメントを学ぶことで、マーケティングの応用理論・手法を習得する。講義を通じて、マーケティングリサーチや需要予測、ターゲティング、マーケティング戦略を自ら立案できるようにする。また講義テーマに沿った最新事例を交えながら学ぶことで、マーケティングを実際の企業活動と結び付けて理解する。	
	A I 戦略論	AIのしくみを身近な適用事例を通じて深めることから始める。特に自動運転のしくみを通じて、様々な種類のAIがあることを知り、そして既に様々なAIサービスが提供されていることを理解したうえで、専門領域ごとにAIのビジネス適用についての理解を深める。続いて、AIサービスの利用体験を経て、企業がAI導入にあたっての検討プロセス、導入障壁について理解する。最後に、AIの今後の発展方向を見据えたうえで、今後どのように社会がAIによって変わっていくかを考える。	
	商品企画論	商品企画は、アイデアを創出することから始まり、企業内外の様々な情報を検討するため、多くの部門の参画が必要となる。商品企画の担当者が、消費対応と競争対応を検討したうえで、最も有望な使用シーンを、ターゲット、ポジショニング、コンセプトに合わせて設定することで、商品企画の技術計画や設計は、よりの確になされる。この講義では、前半に商品企画のプロセスを説明し、そのプロセスで使われる各種の方法を中心に学ぶ。後半では、商品を市場に送り出すマーケティング提案をはじめ、企画書とプレゼンテーションノウハウについて学ぶ。	



## 授 業 科 目 の 概 要

(経営学部 経営学科)

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目 分野別専門 ビジネス・デザイン・スタディーズ	ビジネスモデル論	ビジネスモデルとは、策定された戦略に基づいて価値を顧客に提供し、事業として利益をあげるための仕事の仕組みである。勝ち続けている企業とそうでない企業とでは、一見同じに見えても、ビジネスモデルを構成する要素に大きな違いがあることが多い。本講義では、ビジネスモデルに関する基礎的な概念および理論を解説する。また、企業のビジネスモデルの事例を多く取り上げ、学生自身が学習した概念および理論で事例を解釈することによって理解を深める。	
	中小企業論	日本の企業数の大多数をしめる中小企業は、特殊性ゆえに異質多元的 (hetero-genuity) な存在として捉えられ、ベンチャー、町工場、中小商店など、多様な側面から論じる必要がある。一方でこうした多様な中小企業をひと括りにして論じることは経済学的・経営学的に有効であり必要である。本講義では、多様な視点を取入れながら中小企業を積極的に評価し、中小企業が働く場として重要な意義を持つ点を学ぶ。国民経済の解決すべき課題としての中小企業問題と、国民経済活性化の担い手としての中小企業振興の両面より中小企業の可能性と役割について理解を深めることを目的とする。	
	財務会計論Ⅱ	財務会計論Ⅱでは、資産・負債・株主資本と純資産にかかわる基礎理論をもとに企業の財産状態を理解できるようにする。財務会計の対象と方法、また会計公準、会計原則などの主要概念の内容を講義の最初の方で明らかにし、これからの学習のスタートができるようにする。財務会計は、外部報告を目的とするものであるから、現行の企業会計をささえている企業会計原則、証券取引法、商法などの会計制度の仕組みについても最近の動向を含めて説明し、会計学を支える制度を明らかにする。	
	人的資源管理論	働く人々のマネジメントの歴史、現状、今後の方向について注目し、組織内の労働者に対する管理の各領域について内容と運用の実態について学ぶ。一般に、報酬や労働時間などに議論が集中しがちであるが、各領域は結合して運用されている。したがって、日本企業のトータルなシステムとしてとらえ、就業形態の多様性といった最近の動向も視野に入れながら考察する。70歳定年制が現実味を帯びてきたため、職業人生50年時代に入りつつあり、卒業後に遭遇するであろうことを経営学の視点から学ぶ。	
	対人関係論	私たちの集団や組織、あるいは社会や文化は、私たちの対人的関係性により作られており、このことを社会科学的に考える立場には大きく異なる二つのスタンスが存在する。一つは、独立した個人から出発して関係性を考えようとする立場であり、あと一つは、あえて個人を分離せずに関係性そのものを出発点にしようとする立場である。この講義では、あえて後者の立場から私たちの関係性をとらえる。心理学や社会心理学を中心に、関係性を重視する理論や研究事例を紹介しながら、関係性そのものを出発点とする視点を養い、自己や他者の行動とその関係性についての理解を深める。	

## 授 業 科 目 の 概 要

(経営学部 経営学科)

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目 分野別専門	ビジネス・デザイン・スタディーズ	労働経済論	現代社会で最も基本的で重要な「働くこと」を経済学の観点から分析する。労働経済に関するさまざまな課題や政策に関する基本的な考え方を理解しながら、日本の職場の特徴と様々な労働者グループの多様性を踏まえ、労働と雇用の問題を考える。労働市場の仕組み、キャリアと報酬、労働組合の役割を考察するとともに、労働者としての出発点になる若年労働者、キャリアの終盤であり高齢化社会の渦中にある高齢労働者を取り上げて検討する。女性労働者に関してはライフコースや最近の施策の動向を視野に入れて学ぶ。
	ビジネス・デザイン・スタディーズ	ベンチャービジネス論	新しい分野を切り拓いていくベンチャーについて理解する。ベンチャーには、社会的課題を解決すべく立ち上がったソーシャルベンチャー、企業で新市場を開拓すべく提言実行した企業内ベンチャー、大学での研究成果を技術シーズとして事業化や創業を行う大学発ベンチャーなどがある。ベンチャーは既存の体制や仕組みでは超えられなかった課題に中長期的に取り組み、社会に横たわる課題解決に貢献する。ベンチャーの持つ事業への着眼点、専門性、資金調達、イノベーションなどについて事例を通して学び彼らの情熱を共有する。
	ビジネス・デザイン・スタディーズ	企業情報システムⅡ	企業は情報システムを利活用することで大量のデータを迅速かつ正確に処理でき、業務の効率化を図るとともに、蓄積されたデータに基づきさまざまな意思決定が行われている。このことは企業でのさまざまな活動や業務と情報システムとが相互かつ密接に結びついていることを意味している。企業情報システムⅡでは、事例を通じて、企業での業務において情報システムがどのように利活用されているのかを学ぶ。加えて、情報技術(IT)の発達とともに各年代で企業がどのような目的をもって情報システムを導入してきたのか、その歴史的な経緯や導入における要点について理解する。
	ビジネス・デザイン・スタディーズ	管理会計論Ⅱ	会計学分野は、外部の利害関係者に企業の経営成績や財政状態を報告するための会計である財務会計と、企業内部の経営者や管理者に経営管理に役立つ情報を提供するための会計である管理会計とに分かれている。本講義の目的は、管理会計の基本的な考え方と技法についてケースなどを使って分かりやすく解説することである。すなわち、企業が直面するさまざまな状況において、もっとも有効なマネジメント手法とは何かを考え、それを活用することによってマネジメント問題の解決を図ることがこの科目の狙いとなっている。管理会計論Ⅱでは、原価企画や活動基準原価計算といった原価(コスト)と関連の深いトピックスをメインに取り上げ、それらがどのように経営管理に役立つのかを学習する。なお、毎回の講義の冒頭では事例分析の課題を与え、後半では確認テストを実施し、学習内容の理解を深める。

## 授 業 科 目 の 概 要

(経営学部 経営学科)

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目 分野別専門 ビジネス・デザイン・スタディーズ	経営戦略論Ⅱ	経営戦略論入門および経営戦略論Ⅰの上位科目に位置付けられ、業界および企業を戦略の視点から分析する概念・理論を使って学生自身が実際に分析できるようになることが目標である。戦略分析の代表的なフレームワークである戦略的3C、業界構造分析(5 Forces)、SWOT分析をベースに、自社と競合他社について事業スキーム、バリューチェーン、ビジネスモデル、基本戦略、事業コンセプトでの分析を学ぶ。また、顧客・市場については、市場のセグメンテーションとポジショニング、マーケティング・ミックスでの分析を学ぶ。講義は教員による解説と課題提示、学生による課題の発表、振り返りのサイクルでおこない、実践を通しての理論の理解を深める。	
	デジタル戦略論	情報革命によって、ビジネスモデルにおけるIT主導の破壊的イノベーションが頻繁するビジネス環境では、情報技術に関する意思決定がビジネス成功の主要成功要因になりつつある。本講義は、デジタル戦略論の基本概念からはじめ、様々な事例をあげながら、デジタル時代に組織が成長するための新しい戦略やビジネスモデルの革新方法について、その必要な知識について事例を踏まえて学ぶ。前半は、主に情報技術がいかにビジネスモデルを変え、産業を変革し、新しい市場を創出し、新しい人間社会を生み出しているかを詳細に学習する。後半は、主に企業のデジタル組織やデジタル化のアプローチなどを把握し、デジタルマネジメントとリーダーシップに関わる諸課題とマネジメントフレームワークを学ぶ。	
	パブリックリレーションズ	企業や団体は、自身の事業活動の円滑化や社会との関係性の維持・強化を目指して、消費者、株主、投資家、取引先、従業員、地域住民またメディアなどのステークホルダーとの間で日常的に様々なコミュニケーション活動を行っている。パブリックリレーションズ、つまり広報活動を中心としたコーポレート・コミュニケーションと、広告・販促活動を中心としたマーケティング・コミュニケーションに分けられる。この講義では、前半に企業広報活動の全体像と戦略広報に至るまで広報が企業経営における位置づけの変化を中心に学び、後半では、企業広報の具体的な手法と事例について学ぶ。	
	広告・セールスプロモーション	我々の空間には、様々な形で広告とセールスプロモーションが入り込んでいる。営利企業と非営利組織の広告・セールスプロモーションは、様々な情報伝達手段を通じて私たちにアプローチしてくる。この講義では、前半に広告の基礎と広告を取り巻く環境を中心に学び、後半では、広告の基本業務であるセールスプロモーションを学ぶ。これらを通じて、広告・セールスプロモーションが我々の意識と暮らしに与える影響を発見できる洞察力を身につける。	

## 授 業 科 目 の 概 要

(経営学部 経営学科)

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目 分野別専門	ビジネス・デザイン・スタディーズ	サプライチェーンマネジメント  企業活動の全容を理解するところから始め、種々の業界の事例を知ることでまずサプライチェーンとは何かを理解する。その上で、全体最適を実現しようとするサプライチェーンマネジメントの必要性を認識し、どのように実現されているのかを学ぶ。そして実践事例の背景にあるマネジメントフレームワークに基づき、設計、導入、運用するプロセスについて学び、最後にデジタル化が進む世の中での今後のサプライチェーンマネジメントについて考える。	
	上級財務会計論  講義では、実際に企業の経理実務で発生している問題を取り上げるので、高度な内容になるが、事例を多く入れて説明する。上場会社では、国際会計基準が導入されているので、その特徴などを説明する。また、キャッシュ・フローが企業の重要な項目になっているのでその用語の持つ意味なども説明する。それと同時にフリー・キャッシュ・フロー概念を説明し、その分析技法に触れ、経済記事その他が発信している数値データの意味を解説する。その他、株式会社社会計の中で重要な項目である税効果会計、企業再編会計、外貨換算会計など会計の個別的・上級的な内容について学ぶ。		
	イノベーションプロセス論  企業活動や経営学の中には、決められたことをその通りに行う領域もあれば(会計学、生産管理など)、既存の枠組みや既成概念を壊した上で、新しい価値を創造することを目的とするイノベーションという領域もある。企業はイノベーションによってそのような新しい価値を創造しながら発展してきた。この講義では、まずイノベーションについての背景や研究成果を通じて、イノベーションとは何かという概念とその重要性を学ぶ。その後、新しい発想の下に、市場における新規/未充足需要を発掘し、新規事業につなげるプロセスやデザイン思考について考えるとともに、グループワークによって市場観察や消費者観察を行い、新規需要に対応する「イノベーション・新規事業アイデア案」を創出するプロセスを経験する。		
	Writing  Students learn to write good paragraphs with topic sentences. They also learn the basics of essay writing: writing the introduction with thesis, supporting and concluding paragraphs. Written fluency is developed through in-class timed writings and journaling. Limited grammar instruction is targeted to focus on students' individual need.  要旨の明快な文章を含むパラグラフを作成できるレベルを目指し、米国のMukogawa Fort Wright Instituteで英語のライティングスキルを学ぶ。また、英作文の基礎として、導入部と主張、裏づけや詳細、結論を含めた書き方も学ぶ。講義内に制限時間を設けてエッセイやジャーナル等を書くことによって、ライティングスキルの向上を目指す。文法に関しては、学生個々の必要性に応じた限定的な指導を行う。		

授 業 科 目 の 概 要

(経営学部 経営学科)

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考	
専門教育科目	分野別専門	グローバル・マネジメント・スタディーズ	Reading	<p>In Reading class, students develop their reading skills, including comprehension, scanning, vocabulary building, critical thinking, increasing speed and improving using a variety of text styles. Extensive reading promotes fluency within a more narrative format.</p> <p>長文の英語を読解できるレベルを目指し、米国のMukogawa Fort Wright Instituteで英語のリーディングスキルを学ぶ。そのために、英文の意味の理解力、スキミング（読み取り能力）、語彙数（ボキャブラリ）の拡大、批判的に思考できる能力、読解速度、多様な文体への習熟などを身につける。様々な文章を大量に読み込むことで、ストーリー立てされた文章に関する読解力を大きく向上させることができるようになる。</p>	
			Conversation	<p>Students develop conversational English fluency for social interactions and other situations they will encounter in the U.S. and in the future. They learn discussion skill and pronunciation, and develop the ability to lead and participate in classroom and extracurricular discussions on many topics.</p> <p>アメリカでの社会的な交流や日常生活などで起こり得る状況、もしくは将来的に必要となる状況に対応できるレベルを目指し、米国のMukogawa Fort Wright Instituteで英会話スキルを習得する。そのために、ディスカッションのためのスキルや発音についての学びだけではなく、講義内での議論や講義外の活動での様々な場面において、多くのトピックに関する議論に参加し、リードする能力を身につける。</p>	
			Microeconomics	<p>Objective of this course is to familiarize the student with the concepts and tools of microeconomics, including supply and demand, elasticity, choices by consumers, production and cost, perfect competition, monopoly, oligopoly &amp; monopolistic competition, regulating markets, pricing in resource markets, labor markets and public policy, income distribution, economics of information, economics and environmental policy, global trade and trade policy.</p> <p>ミクロ経済学の基本的なコンセプトやツールを、米国ワシントン州スポケーンにて米国人講師（ゴンザガ大学経営学部の教員）から学ぶ。具体的なトピックとしては、需要と供給、弾力性、消費者選択、生産と費用、完全競争、独占、寡占、独占的競争、市場規制などの基礎的な経済学の理論に加えて、天然資源の価格決定、労働市場と公共政策、所得分布と再分配、情報の経済性、環境政策と経済学の役割、国際貿易と貿易政策などの応用的な経済分野のトピックについても学ぶ。</p>	

授 業 科 目 の 概 要

(経営学部 経営学科)

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目 分野別専門 グローバル・マネジメント・スタディーズ	Financial Accounting	<p>This course is designed to develop knowledge and understanding of a) financial accounting concepts, terminology, and techniques; b) preparation and analysis of general purpose financial reports; c) ethical issues in accounting; d) uses and limitations of accounting information for financial decision making.</p> <p>会計学の基本的な知識を、米国ワシントン州スポケーンにて米国人講師（ゴンザガ大学経営学部の教員）から学ぶ。貸借対照表、損益計算書、キャッシュフロー計算書などの財務会計の基本的なコンセプトや会計用語のほか、現金、在庫、売掛金、固定資産、無形資産、偶発債務、社債償還などの会計処理技法の理解に加えて、一般的な会計報告の分析や、会計にかかわる倫理的問題、財務的意思決定における会計情報の利用とその課題などについても学ぶ。</p>	
	Corporate Finance	<p>Objectives of this course are 1) to develop the capacity to understand the theory and apply, in real world situations, the techniques that have been developed in corporate finance, 2) to utilize concepts taught in class to make informed business and personal financial decisions (i. e. Buying a house or car, investing in the stock or bond market, etc), 3) to understand that maximizing the value of the business is the main goal of corporate finance, e. g., investment decisions, capital structure, payout policy, and risk management.</p> <p>企業財務の基本的な知識を、米国ワシントン州スポケーンにて米国人講師（ゴンザガ大学経営学部の教員）から学ぶ。企業財務の分野において構築されてきた理論を学び、その技法を実際のビジネスに応用するための素養を身につけることに加え、財務的技法を自分で応用する（家を買う、株式や債券に投資するなど含む）素養も身につけ、さらに。投資意思決定や資本政策、株主還元策、リスク管理などの企業財務の目的が事業の価値を最大化することにあるということ学ぶ。</p>	
	ビジネスライティング	<p>The purpose of this class is to acquire practical business writing skills. Specifically, the students are to learn grammatical and compositional lesson points that are useful for business correspondence, particularly email messages. The students are to acquire communicative writing skills by acquiring them. The class also aims to enable the students to develop a good command of degrees of politeness so that they will be able to incorporate an appropriate degree of politeness in their business writing. The students will also find opportunities to be exposed to words and phrases that often appear in TOEIC tests.</p> <p>実用的なビジネスライティングスキルを身につける。具体的には、ビジネスで遭遇するEメールを中心とした英語の通信文の作成に有用な文法と構文を学び、それらを応用することでの的確に伝わる英文を作成する。また、語調の丁寧度を適切に加減できるよう、英語での敬語についての概念も学習し、その場に合ったふさわしい丁寧度で表現できることを目指す。TOEICにも頻出する単語や表現も習得する。</p>	

## 授 業 科 目 の 概 要

(経営学部 経営学科)

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目 分野別専門 グローバル・マネジメント・スタディーズ	スピーチプレゼンテーション	<p>The students will learn concepts and techniques of English speeches and presentations so that they can develop ideas about effective speeches and presentations and put them into practice. The students will also learn useful English expressions that facilitate their communicative skills in a non-native language. The students will be exposed to opportunities to view other students' performance as well as to be viewed through which they will find clues to make improvements in their own performance while understanding linguistic, visual (slides, etc.) and expressive (facial expressions and gestures) lesson points for making effective speeches and presentations for international audience and putting them into practice.</p> <p>英語でのスピーチおよびプレゼンテーションに関する概念とテクニックを学び、効果的なスピーチとプレゼンテーションについて考え、実践する。また、表現力の向上につながる英語表現を身に付け、母語でない言語の使用に伴うコミュニケーションバリアーの解消にも挑戦する。国際的な聴衆に向けておこなうスピーチおよびプレゼンテーションについて、効果的なコミュニケーションという観点から言語的、視覚的（スライド等）、表現術的（表情やジェスチャー等）なポイントを理解し、実践をとおして技術の向上を目指す。</p>	
	経験価値マネジメント	<p>講義はデジタルトランスフォーメーションの理解からスタートし、デジタル化の進行によって市場破壊が起こりつつある中、顧客経験価値が重要になってきている現状とその事例を知る。次に、経験価値マネジメントの理論的フレームワークを学び、その実践的方法論としてのサービスデザインの理解へと進む。サービスデザインは体験して初めてその意味を理解できることから、中盤はグループワークで実際に顧客経験のマネジメントプロセスを経験する。最後に、経験価値マネジメントを企業に取り込むことの障壁とその解決方法について洞察する。</p>	
	グローバル経営論	<p>いわゆる日本的経営論との対比において、グローバル企業の戦略論と組織論の特徴について学ぶ。戦略論に関しては、現代において優良企業とされる企業の事例をもとに、「組織能力」（ケイパビリティ）の強化を伴って独自性を伸ばす戦略についての理解を行うとともに、欧米的な合併・買収（M&amp;A）の取り組みや、製造機能に対する考え方を理解する。組織論に関しては、組織内での責任と権限を明確に規定して成果を問うという欧米的なメカニズムについての理解を行い、その比較において日本的経営の課題についても考察する。</p>	
	グローバル製品開発論	<p>市場のグローバル化により、企業活動は製品開発段階からグローバルな取り組みを重要視する傾向が高まっている。しかし、製品は様々な理由から国によって違いがある。例えば言語、使用方法、認証条件、または国ごとに市場セグメントが違うこともあれば、製品の嗜好が文化の影響を受けている場合もある。また、グローバル製品の開発は、グローバルマーケティング戦略と密接に関係している。そのため、この講義では、グローバル製品の開発事例を通して、グローバル製品開発の枠組みを学ぶだけでなく、グローバル企業のマーケティング活動の諸分野（価格戦略、流通戦略、販売戦略、ブランド戦略）についても学ぶ。</p>	

## 授 業 科 目 の 概 要

(経営学部 経営学科)

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目 分野別専門	グローバル・マネジメント・スタディーズ	ブランド戦略論	アメリカ・マーケティング協会は、ブランドを「ある売り手あるいは売り手の集団の製品およびサービスを識別し、競合他社の製品およびサービスと差別化することを意図した名称、言葉、シンボル、デザイン、あるいはその組み合わせ」と定義している。ブランド戦略とは、ブランド・ネーム、ロゴ、スローガン、キャラクター、パッケージなどの要素から、ブランド事業部門の設置と廃止まで、戦略的に行う経営判断を指す。この講義では、前半にブランドの構造を中心に講義を行う。後半では、ブランドポートフォリオ戦略を中心に講義を行う。市場競争がますます現代社会においては、ブランド戦略が企業経営に果たす重要な役割を理解する。
	企業の投資意思決定	企業が資金を投資して価値を生み出す際の判断手法をコーポレート・ファイナンス（企業財務）の理論をもとに学ぶ。講義では、正味現在価値（NPV）法を用いた定量的な投資意思決定手法を身につけるとともに、NPV法の課題とされる資本コストの推定方法、不確実性のある場合の意思決定方法、海外投資に関する意思決定方法などについて理解する。こうした分析手法に関する理解のために、講義型の授業に加えて、簡素化された事例をもとにしたケース演習を通じて、定量的な分析手法を身につける。また、金融オプション、リアルオプション、為替リスク管理、マーケティングROIなどの専門的なテーマに関しても、その概要を学ぶ。	
	M&Aと企業価値評価	M&A（合併・買収）は企業の競争力強化、持続的成長を達成していくための有効な手段である。M&Aは総合格闘技と呼ばれることも、あるように、経営、ファイナンス、会計、税務、法務、労務等をはじめとする多面的な知識が必要とされ、なかでもバリュエーションと呼ばれる企業価値評価は最重要のトピックである。講義では、複雑でダイナミックなM&Aというものを、様々な事例やグループワークを通じて、受講者が実際のプロセスを当事者として追体験できるよう理解を深める。	
	新興国企業論	現代では、多くの企業が国境を越えて事業を展開し、グローバルに活動する多国籍企業となっている。かつて、そのような多国籍企業は、そのほとんどが日本企業を含む先進国の企業であった。しかし近年は、インド・中国・東南アジア・中南米など新興国に出自を持つ多国籍企業が、急速に存在感を増している。このような新しいタイプの多国籍企業は、その経営にどのような特徴があるのだろうか。そしてその経営手法には、海外に事業を展開する日本企業にとって、どのようなヒントがあるのだろうか。この講義では、新興国に出自を持ち事業の海外展開に成功した企業の事例を題材に、グローバル経営モデルの多様なあり方の理解する。	
	パブリック・マネジメント・スタディーズ	パブリックマネジメント	公共経営とは何か、社会経済においてどのような位置を占めるのかなど、公共経営の背景となる概念や位置付けを学んだ後、地域社会における様々な公共サービスを提供していくための知識と手法を習得する。公共経営に際して必要となる意思決定や組織ガバナンス、人材育成やモチベーションの維持などの経営手法、公共サービスの評価、財務会計など経営に必要な知識を習得するとともに、地域経営の実例を通じて実際の公共サービスのマネジメント手法を学ぶ。



## 授 業 科 目 の 概 要

(経営学部 経営学科)

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目 分野別専門 パブリック・マネジメント・スタディーズ	産学教育連携論	産学連携の歴史や手法について解説した後、各地域の産業が抱える問題を抽出し、それを解決するために必要な手法を、総合的に活用した視点から学ぶ。前半は産学連携の歴史や仕組みなどの知識を学び、後半はイノベーションが実現することによって、企業成長や国家発展が実現するプロセスやメカニズムについて理解し、イノベーションを誘発することに貢献する人材としての基礎能力を身につける。	
	環境マーケティング	環境マーケティングでは、持続可能な社会を築くという最終目標に向けて、企業が環境負荷に対する費用負担を市場メカニズムに取り込めるかどうか、つまり、環境配慮型の経済活動を企業経営の中に取り込めるかどうかについて検討します。講義では、環境配慮に関する企業行動に着目し、その効果と可能性について学ぶとともに、環境配慮的な製品や環境配慮型の活動を支持する消費者の行動にも着目する。また、企業が実際に行っている環境マーケティングの事例を紹介し、その内容から抽出できる課題について考える。	
	公共政策論	国と地方自治体における行政組織や公務員制度、財政の仕組みなど国の政策形成の基礎となる法制度、社会保障制度など将来の日本にとって重要な制度に関する知識を習得するとともに、それらが将来に向けてどのような課題を有し、その解決策はどのようにして導かれるのかを考察する。さらに具体的事例を通じて政策形成がどのように行われるのかという政策形成プロセス、政策がどのように維持されていくのかという政策評価などの知識を習得し、社会人として有すべき公共政策に関する知識と社会の将来を考える。	
	地域産業論	我が国において、大都市圏以外の地域におけるGDPや雇用のウェートは非常に高く、経済の活性化のためには、地域産業の活性化が不可欠である。そのため、グローバル化へ向かう市場経済の拡大の中で、そのように地域産業を活性化させるのかを考える。講義では、さまざまな地域産業について、具体的な事例を紹介しつつ、地域産業を考える上で必要な視点と知識を習得する。また、日本における地域に根差した産業が直面する現状と課題を明らかにした後、世界の成功事例を元に日本の地域産業の活性化策を学ぶ。	
	地方財政論	少子高齢社会が進行する中で子育て支援、高齢者医療や介護保険のニーズが高まり、その財源問題は自治体にとって大きな負担となっている。さらに、これらの社会保障に加えて、ゴミ収集処分、農工商業、道路、都市計画、住宅、消防、教育などの施策に関しても、各自治体はその多額の財源の確保に苦慮している。本科目では、このような問題意識を持ちながら、市民の暮らしを良くするための方策を考える際に必要な、地方財政に関する基礎的知識を習得することを目的とする。そのためには、まず地方財政の歴史や仕組みなど理論的側面を学ぶ。しかし、より良い施策を考える際には地方財政の現状を知る必要があるため、阪神間の主だった自治体から財政担当者を招くなどして、予算編成の方針や手法など実際の側面についても学ぶ。	

## 授 業 科 目 の 概 要

(経営学部 経営学科)

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目 分野別専門 パブリック・マネジメント・スタディーズ	市民協働参画論	現在、産官学民等による協働プロジェクトが様々な分野で盛んに行われている。複雑化し多様化する社会課題を解決し、個人の幸福追求が実現できる社会を維持するためには、課題当事者である市民が社会づくりに主体的に参画していくことが必要となる。この講義では、まず、市民参画の歴史を概観した後、実際に参画するプロセスを「広報」という視点から学ぶ。さらに、異なる立場の市民が、課題と互いの価値を発見して、創造的解決のための合意形成と行動をアクティブラーニングも取り入れながら理解していく。	
	行政法	行政法は「民法」や「商法」のように単独の法典が存在しているわけではなく行政に関連する法律の総称をいう。本講義では、将来的に行政に関わることになった際に、円滑に業務を遂行できるようにするため、行政法の基本となる原理や行政の組織、各種行政行為の種類のほか、行政法を構成する各種法律の条文をみながら、学説・判例とともに行政法の基礎的知識を深めていく。また、情報法のほかに、訴訟法についても取り上げる。	
	福祉経営論	福祉事業を取り巻く社会環境や制度と、福祉サービスの多様な提供主体について理解するとともに、福祉サービス自体がもつ公共性や専門性等からくる福祉事業の経営の特殊性について学ぶ。それらを踏まえて、質の高い福祉サービスを効率的に提供するためにはどうしたらよいか、福祉事業の経営に関する基本的な枠組みの現状と課題、特に人材の採用、育成、ITの活用、質的管理等、あるいは利用者対応等について、事例等を踏まえながら学ぶ。また、アジアの高齢化を背景とした高齢者福祉事業の海外展開などについても学ぶ。	
	地域政策論	地域の課題を解決する上で地方自治に関する基本的な制度の知識を身につける必要がある。地方自治体の組織や地方公務員制度、NPOや地縁団体など地域づくりの主体に関する制度など基本的な制度と政策の背景となる知識を習得するとともに、地域を取り巻く環境やその変化の状況、地方の財政状況など課題の背景となる社会環境とその変化の状況について学ぶ。また実際に地域において実施された政策の実例を通じて、地域の課題への対応策やその実施のためのプロセスにおいて何が大切なのかを考察する力を習得する。	
	情報政策論	情報化社会の進展に伴い行政分野においても情報システムの利活用が進んでいる。情報システムの行政サービスへの利活用の状況や自治体の行政サービスがITの利用によってどのように変わりつつあるのかを学び、将来どのように変わるべきなのかを考察する。さらにマイナンバー制度、公的個人認証制度をはじめとした情報化社会における基礎的インフラ制度への理解を深め、そのインフラによって今後の社会の仕組みがどのように変わるのか、どのような政策が必要となるのかを学ぶ。	

## 授 業 科 目 の 概 要

(経営学部 経営学科)

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
分野別専門	パブリック・マネジメント・スタディーズ	地域ブランド論	地域振興に取り組むうえで産業振興は重要課題のひとつであり、地域の個性を強く反映する産業のひとつとして地場産業振興のあり方が模索されている。経営環境の激変のなかで地場産業の衰退は地域経済を弱体化させた。一方で近年地場産業のブランド化の取組が進んでいる地域がある。こうした地場産業のブランド化について事例を交えながら地域のあり方について理解を深めることを本科目の目的とする。前半では地域の衰退要因と地域を構成する主体について学ぶ。中盤では地場産業がなぜ地域の主要な産業としての役割を担うのかについて学ぶ。後半では最近の地場産業振興の取組について事例検証を通じて学ぶ。	
		地域防災・復興論	近年、「防災」への関心が高まっており、その顕著な例として事前復興計画がある。また、防災や災害対策については、大学や研究者において自然科学や工学の領域、あるいは人文科学や社会科学からのアプローチも見られる。一方で、防災への関心は地域において自主防災組織の結成として表れている。本講義では、このような状況を意識しながら、地域防災、地域コミュニティ、災害ボランティア論、ソーシャルキャピタルなどについて学ぶ。	
専門教育科目	業界研究	美容業界論	美容業界において、「美を通して豊かな人生を実現する」というミッションを実現するために携わるビジネスは多岐に渡る。この講義では、主に化粧品業界を事例とした業界史・ビジネスモデル論・企業戦略・マーケティング戦略などを通じて、近年、女性の社会進出と長寿の傾向に伴って安定的に発展してきた化粧品業界ビジネスを学ぶ。また、業界・企業・店舗を取り巻く課題についても議論し、新製品・新サービスの開発、新規事業・新市場創造などの提案について学ぶ。	
		健康ヘルスケア産業論	健康ヘルスケア産業は医療領域および介護領域を省いた疾病予防・健康維持・健康増進領域を対象としている。医療領域および介護領域と比較して、法規制や国家資格、投資規模など参入障壁が低いものも多く、健康ヘルスケア産業への新規参入は後を絶たない。また政府は健康長寿社会を実現し経済成長も目指す健康・医療戦略を掲げており、更なる成長が期待できる。講義では業界全体像と環境変化を踏まえた上で、主要業界および成長業界の市場構造や企業動向、収益の仕組みについて学ぶ。	
		流通産業論	流通産業は、いまや日本経済における代表産業であり、チェーンストア方式の普及もあって多様な業態が展開され、大規模な雇用を創出している。本講義では、流通産業が成長する原動力となったチェーンストア理論を理解するとともに、伝統的な百貨店や個人商店に代わって出現した様々な業態と代表的企業における経営の特徴と、雇用や働き方について学ぶ。また、企業の大型化に伴うハイブリッド化や国際化など近年の経営戦略に着目しながら産業の将来を考える。	

## 授 業 科 目 の 概 要

(経営学部 経営学科)

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
専門 教育 科目	業界 研究	ファッション・アパレル業態論	ココ・シャネルがブティックを開店してから約100年。ファッションビジネスは数回の革新を経て現在へ至ります。素材産業から、既製服、ファッションデザイナーの登場、ブランドビジネス、パリやミラノのコレクション、アパレル企業、ストリートファッション、情報化社会に登場したグローバルSPAとファストファッション、ネット通販までを取り上げ、流行の構造とはなにか、消費者の意識は変わりゆく社会においてどのように推移するのか考察しながら、ファッション業態の未来を考える。	
		情報通信産業論	情報通信業は、日本標準産業分類の平成11年改訂で大分類に採択され、現在では 国内総生産の10%近くを占める基幹産業になった。この講義ではその歴史的展開、わが国の産業の中での情報通信業の位置づけを理解するとともに、産業全体の今後の発展に深く関与するであろうインターネット附随サービスに重点を置いて、その事業構造を中心に解説する。これらのテーマについて小グループでの発表やディスカッションすることを通し、情報通信業がわれわれの生活とどのように関わっているのかを理解するとともに、これからの情報通信産業が向かうであろう方向について考える。	
		ホテル・ホスピタリティ産業論	ホテル業界の歴史および現状並びにホテルの組織及び職務等について学ぶと共に、その人材育成方法、例えば選考、オリエンテーション/トレーニング、表彰等やマーケティング、収支構造等について、実例を基に学ぶ。ホテル業界以外にも、エアライン、テーマパーク、百貨店等のケーススタディを通じて、ホスピタリティ産業の成功要因を学ぶ。さらに、現在の各企業が課題としているコンプライアンス、CSR（企業の社会的責任）およびダイバーシティ（多様性）等について、ホスピタリティ業界の先進事例を紹介する。	
		フードサービス産業論	外食産業は、いまや日本人のいわゆる「胃袋市場」の多くを担う総合的な「フードサービス産業」に成長し、多様な業態が展開され、新陳代謝を繰り返しながら雇用を創出している。この講義では、1970年代にチェーンストア理論を原動力としてフードサービス産業へ脱皮した外食産業が、以後の各時代に一層深く豊かに進化した内容に着目しながら、様々な業態と代表的企業の経営の特徴と雇用・働き方について学び、産業の将来を展望する。	
		レジャー・エンターテインメント産業論	人の暮らしとともにその形を変えてきたレジャーやエンターテインメントの歴史を振り返り、それを起点として、現代におけるレジャーやエンターテインメントの意義や役割を学ぶ。具体的には、現代において人々の「遊び」「熱狂」「くつろぎ」「癒やし」ニーズを満たす種々の業態の事例を取り上げ、サービスを提供する側の業態としての成立過程やマーケティング戦略について学ぶとともに、サービスを楽しむ顧客側の関わりについても学ぶことで、未来のレジャーやエンターテインメントの有り様について考える。	

## 授 業 科 目 の 概 要

(経営学部 経営学科)

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目	専門演習 I	この科目は専門演習Ⅱ～Ⅳと連動して、各教員の専門性をもとに設定したテーマに関する研究について、その立案から実施、報告、評価までを演習形式で体系的に学習する。この専門演習Ⅰでは、ビジネスや社会貢献をテーマとした活動の企画・実施を主な課題とするプロジェクト型の研究と、そうしたテーマを視野に入れながらも、主に学問的視点から調査や考察を行うアカデミック型の研究のいずれかが設定され、4年間の学びの集大成として行う卒業研究に向けて、具体的なテーマの設定、いわゆるリサーチクエスションの設定について学ぶ。	
	専門演習Ⅱ	この科目は専門演習ⅠおよびⅢ・Ⅳと連動して、各教員の専門性をもとに設定したテーマに関する研究について、その立案から実施、報告、評価までを演習形式で体系的に学習する。この専門演習Ⅱでは、専門演習Ⅰで設定されたプロジェクト型研究、もしくはアカデミック型研究のリサーチクエスションに対して、具体的にアプローチするための研究レビューや先行事例の検討、必要となるデータの収集方法・分析方法などの検討を行い、研究計画を具体的にまとめる。	
	専門演習Ⅲ	この科目は専門演習Ⅰ・Ⅱ、およびⅣと連動して、各教員の専門性をもとに設定したテーマに関する研究（プロジェクト型研究、もしくはアカデミック型研究）について、その立案から実施、報告、評価までを演習形式で体系的に学習する。この専門演習Ⅲでは、専門演習Ⅱで作成した研究計画の実施について、進捗報告を行うとともに、その時々で生じる問題や課題、新たな知見・発見などについて共有・検討し、研究活動への具体的なフィードバックを行う。	
	専門演習Ⅳ	この科目は専門演習Ⅰ～Ⅲと連動して、各教員の専門性をもとに設定したテーマに関する研究（プロジェクト型研究、もしくはアカデミック型研究）について、その立案から実施、報告、評価までを演習形式で体系的に学習する。この専門演習Ⅳでは、実施した研究を具体的な成果としてまとめ、報告し、その研究の意義や意味、得られた知見について検討・評価する。授業の主な目的を、研究成果の理解と社会的な共有に置き、それを実現するための方法の学習と実際の研究成果の共有を目指す。	
卒業研究	卒業研究	指導教員の助言に従い、専門演習Ⅰ～専門演習Ⅳでの学習にもとづいて、プロジェクト型の研究、あるいは、アカデミック型の研究を遂行し、本学での4年間の学びを集大成する。そのため、研究の実施に際しては、テーマの明確化、研究内容の社会的意義についての検討、先行研究や調査資料等の分析と研究方法についての検討、研究成果についての検討等が十分になされていることが重要である。また、学生の自主的な活動とその成果がこの科目の評価対象となるため、指導教員と綿密なコミュニケーションを行い、研究活動の量と質の両方については、常に指導教員がモニターできる状況を確立しておくことが求められる。また、得られた研究成果は報告会を通じて学内外に発信し、その社会的な意義についてのフィードバックを得る。	

# 学校法人 武庫川学院 設置認可等に関わる組織の移行表

令和元年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	令和2年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	変更の事由
武庫川女子大学				武庫川女子大学				
文学部				文学部				
日本語日本文学科	150	3年次 25	650	日本語日本文学科	150	3年次 25	650	
英語文化学科	200	3年次 25	850	英語文化学科	200	3年次 25	850	
心理・社会福祉学科	160	3年次 17	674	心理・社会福祉学科	160	3年次 17	674	
教育学部				教育学部				
教育学科	240	3年次 25	1,010	教育学科	240	3年次 25	1,010	
健康・スポーツ科学部				健康・スポーツ科学部				
健康・スポーツ科学科	180	3年次 20	760	健康・スポーツ科学科	180	3年次 20	760	
生活環境学部				生活環境学部				
生活環境学科	165	3年次 20	700	生活環境学科	165	3年次 20	700	
食物栄養学科	200	3年次 10	820		0	3年次 0	0	平成31年4月学生募集停止
情報メディア学科	150	—	600	情報メディア学科	150	—	600	
建築学科	40	—	160		0	—	0	平成31年4月学生募集停止
				<u>食物栄養科学部</u>				学部の設置(届出)
				<u>食物栄養学科</u>	<u>200</u>	<u>3年次 10</u>	<u>820</u>	
				<u>食創造科学科</u>	<u>80</u>	<u>3年次 5</u>	<u>330</u>	
				<u>建築学部</u>				学部の設置(届出)
				<u>建築学科</u>	<u>45</u>	—	<u>180</u>	
				<u>景観建築学科</u>	<u>40</u>	—	<u>160</u>	
音楽学部				音楽学部				
演奏学科	30	—	120	演奏学科	30	—	120	
応用音楽学科	20	—	80	応用音楽学科	20	—	80	
薬学部				薬学部				
薬学科	210	—	1,260	薬学科	210	—	1,260	
健康生命薬科学科	40	—	160	健康生命薬科学科	40	—	160	
看護学部				看護学部				
看護学科	80	—	320	看護学科	80	—	320	
				<u>経営学部</u>				学部の設置(認可申請)
				<u>経営学科</u>	<u>200</u>	—	<u>800</u>	
計	1,865	142	8,164	計	<u>2,190</u>	<u>147</u>	<u>9,474</u>	

令和元年度

入学定員 編入学定員 収容定員

令和元年度	入学定員	編入学定員	収容定員
武庫川女子大学大学院			
文学研究科			
日本語日本文学専攻(M)	12	—	24
日本語日本文学専攻(D)	3	—	9
英語英米文学専攻(M)	12	—	24
英語英米文学専攻(D)	3	—	9
教育学専攻(M)	6	—	12
臨床心理学専攻(M)	20	—	40
臨床教育学研究科			
臨床教育学専攻(M)	16	—	32
臨床教育学専攻(D)	6	—	18
健康・スポーツ科学研究科			
健康・スポーツ科学専攻(M)	20	—	40
生活環境学研究科			
食物栄養学専攻(M)	12	—	24
食物栄養学専攻(D)	2	—	6
生活環境学専攻(M)	6	—	12
生活環境学専攻(D)	2	—	6
建築学専攻(M)	22	—	44
建築学専攻(D)	2	—	6
薬学研究科			
薬学専攻(D)	2	—	8
薬科学専攻(M)	30	—	60
薬科学専攻(D)	2	—	6
看護学研究科			
看護学専攻(M)	12	—	24
看護学専攻(D)	3	—	9
計	193	—	413

令和2年度

入学定員 編入学定員 収容定員 変更の事由

令和2年度	入学定員	編入学定員	収容定員	変更の事由
武庫川女子大学大学院				
文学研究科				
日本語日本文学専攻(M)	12	—	24	
日本語日本文学専攻(D)	3	—	9	
英語英米文学専攻(M)	12	—	24	
英語英米文学専攻(D)	3	—	9	
教育学専攻(M)	6	—	12	
臨床心理学専攻(M)	20	—	40	
臨床教育学研究科				
臨床教育学専攻(M)	16	—	32	
臨床教育学専攻(D)	6	—	18	
健康・スポーツ科学研究科				
健康・スポーツ科学専攻(M)	20	—	40	
生活環境学研究科				
食物栄養学専攻(M)	12	—	24	
食物栄養学専攻(D)	2	—	6	
生活環境学専攻(M)	6	—	12	
生活環境学専攻(D)	2	—	6	
	0	—	0	平成31年4月学生募集停止
	0	—	0	平成31年4月学生募集停止
建築学研究科				
建築学専攻(M)	22	—	44	研究科の設置(届出)
建築学専攻(D)	2	—	6	
景観建築学専攻(M)	6	—	12	
景観建築学専攻(D)	1	—	3	
薬学研究科				
薬学専攻(D)	2	—	8	
薬科学専攻(M)	30	—	60	
薬科学専攻(D)	2	—	6	
看護学研究科				
看護学専攻(M)	12	—	24	
看護学専攻(D)	3	—	9	
計	200	—	428	

令和元年度

入学  
定員

編入学  
定員

収容  
定員

	入学 定員	編入学 定員	収容 定員
武庫川女子大学短期大学部			
日本語文化学科	100	—	200
英語キャリア・コミュニケーション学科	100	—	200
幼児教育学科	150	—	300
心理・人間関係学科	100	—	200
健康・スポーツ学科	80	—	160
食生活学科	160	—	320
生活造形学科	90	—	180
計	780	—	1,560

令和2年度

入学  
定員

編入学  
定員

収容  
定員

変更の事由

	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	変更の事由
武庫川女子大学短期大学部				
日本語文化学科	100	—	200	
英語キャリア・コミュニケーション学科	100	—	200	
幼児教育学科	150	—	300	
心理・人間関係学科	100	—	200	
健康・スポーツ学科	80	—	160	
食生活学科	<u>80</u>	<u>—</u>	<u>160</u>	定員変更(△80)
生活造形学科	90	—	180	
計	<u>700</u>	—	<u>1,400</u>	